

永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2014 年 5 月

「そこで…彼らの心を開いて」「身体的また知的発達によってキリストを映す」

「第二天使のメッセージ『エジプトにいるが、エジプトのものではない』」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

今月の聖書勉強

「そこで…彼らの心を開いて」

4

イエスの聖書研究

朝のマナ

「身体的また知的発達によってキリストを映す」

9

キリストを映して

現代の真理

「エジプトにいるが、エジプトのものではない」

72

三重のメッセージ-第二天使のメッセージ-

力を得るための食事

「彩りロールキャベツ」

82

お話コーナー

「うわさばなし?それとも良い知らせ?」

84

教会

【正丸教会】

〒368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

電話：0494-22-0465

FAX：0494-40-1045

【高知集会所】

〒780-8015 高知県高知市百石町 1-17-2

電話：088-831-9535

【沖縄集会所】

〒905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21

電話：0980-55-8136

アクセス

ホームページ：<http://www.4angels.jp>

メール：support@4angels.jp

発行日 2014 年 4 月 30 日

編集&発行 SDA 改革運動日本ミッション

〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: Dreamtimes on front cover; Getty Images on page 7

Printed in Japan

神がお定めになった道を歩みなさい

摂理のうちになされることは、信じない者には暗黒と絶望をもたらすが、信じ、よりのむ魂には輝く光明であり、平和である。人類のあけぼの上巻 334

神のしもべが活動的な働きから後退させられるとき、先を見通すことができないわれわれは、その不可解な摂理を歎くが、そうでなければ決してなされないような働きをなし遂げるために、神は摂理を計画されるのである。(患難から栄光へ下巻 157)

人々の心を読み取られる神は、彼ら自身が知る以上に彼らの弱さをよく知っておられる。……み摂理のうちに、神は、これらの人々を違った立場や様々な環境に置き、自分では気づかない、隠れた欠点を発見できるようにさせて下さる。神は彼らに、これらの欠点にうち勝ち、献身するにふさわしい者となるような機会を与えて下さる。(患難から栄光へ下巻 224)

アブラハムは、神の摂理の導きを説明することはできなかった。彼は自分が期待していることを現実のものとしてはいなかった。しかし、「あなたを祝福し、あなたの名を大きくしよう。あなたは祝福の基となるであろう」という約束を強く信じた。……

主は、摂理のうちに、この試練を与えて、服従、忍耐、信仰などの教訓を教えようとなさった。この教えは、後で苦難に耐えるように召されるすべての人のために記録されることになった。神は、神の子らを彼らの知らない道に導かれるが、神は、神に頼るものを忘れたり、見捨てたりなさらない。(人類のあけぼの上巻 127)

キリスト者の友よ、サタンはあなたの弱点を知っている。だからイエスにしっかりとつかまっていなさい。……信仰をあなたの経験の中に持ち込みなさい。信仰は、すべての重荷を軽くし、すべての疲労を和らげる。今不可解な摂理は、神に絶えず信頼することによって解決することができる。神がお定めになった道を、信仰によって歩きなさい。(国と指導者上巻 143)

「そこで…彼らの心を開いて」

十字架の光景

キリストが十字架にかかれた時ほど、イエスが広く一般に知られたことはなかった。十字架の光景を見、キリストのこぼれを聞いた多くの人々の心に真理の光がさしこんでいた。(各時代の希望下巻 267)

キリストの死と結びついている尊い約束

弟子たちはキリストの死の預言と結びついていた尊い約束を見失っていた。しかし、これらが彼らの記憶に戻ってきたとき、信仰がよみがえった。そしてキリストがご自身を彼らに表わされた後、彼らは「道々お話しになったとき、また聖書を説き明してくださったとき、お互の心が内に燃えたではないか」と叫んだ。

心に語りかけられた神のみ言葉には生命を吹き込む力がある。この言葉と親しまない人々は神のご要求を満たすことができない。品性の醜さが彼らの怠慢の結果である。彼らの言葉や行為は彼らの救い主の恥辱である。(ビュー・アット・ヘラド 1903 年 3 月 31 日)

道々お話しになったとき、また聖書を説き明してくださったとき、お互の心が内に燃えたではないか。(ルカ 24:32)

彼らのうちで心の内を燃え立たせたものは何であつたろうか。それは聖書の中にある啓発力であり、それが彼らの信仰をよみがえらせたのであつた。(説教と講和 1 巻 173)

これこそ、主がすべてのセブンスデー・アドベンチストに得てほしいと願っておられる経験である。このお方は彼らが聖書を徹底的に理解し、知識の宝庫全体を得て、そこから引き出すようにと望んでおられる。……(エリ・G・ワット 1888 年原稿 1720)

聖書を理解することが最重要事項

イエスはまず彼らにご自分の真の正体を表わしてから、彼らの思いに聖書を聞くことをなさらなかった。なぜなら、このお方は死からよみがえられたご自分に再会したことを喜ぶあまり、彼らの魂は満足してしまうことをご存知だったからである。このお方が彼らの思いに消し去ることのできない印象を残したいと願っておられた尊い真理に飢え渴くことはなかったであろう。心に印象づけられることによって彼らは他の人々にそれらを分け与え、今度はその人たちが尊い真理を広めて、ついに何千もの人々が、あの日エマオの途上にあつて絶望していた弟子たちに与えられた光を受けるようにと願っておられた。

このお方は聖書を解説してしまわれるまでご自分の正体をそのまま隠し、ご自分の生涯、品性、地上での使命、そしてご自分の死とよみがえりを信じる知的な信仰へと彼らを導かれた。このお方はご自分の個人的な証によって裏付けられたからではなく、ご自分の生涯と死という事実と一致した型の律法と旧約の預言者たちが、疑問の余地のない真理の証拠を提示したがゆえに、真理が彼らの思いのうちに根ざすようにと望まれた。この二人の弟子に働かれた目的が達成されたとき、このお方は彼らの喜びを満たすために彼らにご自分を表わされ、それから彼らの前から姿を消されたのであつた。(SDA パイブル・コメント [E.G. ホット・コメント] 5 巻 1125)

「モーセと預言者たち」

わたしたちは、モーセが律法の中にしるしており、預言者たちがしるしていた人、ヨセフの子、ナザレのイエスにいま出会った。(ヨハネ 1:45)

モーセの律法と預言書と詩篇とに、わたしについて書いてあること。(ルカ 24:44)

復活後、イエスは、エマオ途上の弟子たちに現われ…た。弟子たちの心は感動した。信仰が燃えた。イエスがご自分を彼らに現わされる前から、彼らは、「新たに生れさせ」られ、「生ける望みをいだかせ」られた。彼らの理解を明らかにし、「確実な預言の言葉」の上に信仰を確立させることが、イエスの目的であつた。彼は、真理が、単にそれが彼ご自身のあかしによって裏付けられたからだけでなく、型としての律法の象徴と影、そして旧約の預言によって提示されたところの、疑う余地のない証拠のゆえに、彼らの心にしっかりと根をおろすよう望まれた。キリストの弟子たちは、自分たちのためばかりでなく、キリストに関する知識を世

界に伝えるためにも、正しい理解に基づいた信仰を持たねばならなかった。イエスは、この知識を分け与える第一歩として、「モーセやすべての預言者」を弟子たちに示された。……

弟子たちが、彼らの主の愛に満ちた顔をもう一度見たときに、彼らの心には、どんな変化が起こったことであろう（ルカ 24:32 参照）。彼らは、これまでにない完全な意味において、「モーセが律法の中にしるしており、預言者たちがしるしていた人」を見つけたのである。（各時代の犬争闘下巻 42, 43）

彼らは「確信した」

不安、苦悩、絶望が、完全な確信と曇りのない信仰にか変わった。主の昇天後、彼らは「絶えず宮にいて、神をほめたたえていた」とは、なんと驚くべきことであろう。救い主の不面目な死しか知らなかった人々は、弟子たちの顔に悲しみと困惑と敗北の色を見えると思った。しかし、そこには喜びと勝利があふれていた。この弟子たちは、その前途に横たわる働きをなすために、なんという準備を受けたことであろうか。彼らは、経験し得る最も深刻な試練を越えて、人間的見地からは全く敗北と思われた時に、神のみ言葉が勝利のうちに成し遂げられたのを見たのである。とすれば、いったい何が彼らの信仰をくじき、彼らの熱烈な愛を冷やすことができたであろうか。最も激しい悲しみのなかで、彼らは「力強い励まし」を受け、「たましいを安全にし不動にする錨」である望みを持つことができた（ヘブル 6:18, 19）。彼らは、神の知恵と力とを目撃した。そして彼らは、「死も生も、天使も支配者も、現在のものも将来のものも、力あるものも、高いものも深いものも、その他どんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスにおける神の愛から、わたしたちを引き離すこと」ができないことを確信した。彼らは、「これらすべての事において勝ち得て余りがある」と言った（ローマ 8:38, 39, 37）。「主の言葉は、とこしえに残る」（ペテロ第一 1:24）。「だれが、わたしたちを罪に定めるのか。キリスト・イエスは、死んで、否、よみがえって、神の右に座し、また、わたしたちのためにとりなして下さるのである」（ローマ 8:34）。（各時代の犬争闘下巻 43, 44）

彼らは……この大いなる知らせを伝えなければならない

預言者たちやモーセが、今後起るべきだと語ったことを、そのまま述べてきま

した。(使徒行伝 26:22)

そこで、日を定めて、大ぜいの人が、パウロの宿につめかけてきたので、朝から晩まで、……モーセの律法や預言者の書を引いて、イエスについて彼らの説得につとめた。(使徒行伝 28:23)

しかし、彼らはこのすばらしい知らせを伝えなくてはならないと思うと、すわって語っていることができない。彼らの疲れと空腹はどこかへいつてしまった。彼らは、食事に手もつけないで、よろこびのあまり、すぐにもう一度さつきやってきた道を出かけ、都の弟子たちにこの知らせを伝えるために急ぐ。……彼らは、自分たちといっしょに道を歩かれたおかたの保護があることを見もしなければ、知りもしない。……

夜は暗いが、義の太陽が彼らを照らしている。彼らの心はよろこびにおどる。彼らは新しい世界にいるような気がする。キリストは生きておられる救い主である。彼らは、もはやキリストが死んでおられるといて嘆かない。キリストはよみがえられたのだと、彼らは何度も何度もくりかえす。この知らせを、彼らは悲しんでいる者たちに伝えるのだ。彼らは、エマオへの道中のふしぎな話を弟子たちに語らねばならない。彼らは、途中でだれといっしょになったかを語らねばならない。彼らは、世に与えられた最高のメッセージ、今も永遠までも、人類家族の望みがかかっているうれしいおとずれをたずさえているのだ。(各時代の希望下巻 338)

もしわたしたちがこれを悟っていたなら……

使徒はわたしたちに、「聖書は、すべて神の靈感を受けて書かれたものであって、人を教え、戒め、正しくし、義に導くのに有益である。それによって、神の人が、あらゆる良いわざに対して十分な準備ができて、完全にとのえられた者になるのである」と教えている。もしわたしたちが聖書を探るならば、その中に表わされた真理がわたしたちの理解に開かれるとき、わたしたちの心は内に燃えるのである。聖書を通じてちりばめられた真珠のような尊い約束をわがものと主張するときに、わたしたちの希望は輝く。わたしたちが父祖や預言者、すなわち神を愛し、畏れ、このお方と共に歩んだ人々の歴史を研究するとき、わたしたちの魂は彼らを活気づけた御霊に明々と輝く。……

問いがなされている。諸教会における霊的な力の欠乏の原因は何であろうか。答えは、わたしたちの思いがみ言葉から引き離されることを許しているからである。

もし神のみ言葉を魂のための食物として食べるならば、もしそれが注意と敬意をもって扱われるならば、繰り返しになわれてきた多くの証は不要となる。聖書の単純な宣布は受け入れられ、実践される。生ける神のみ言葉は単に記されたものではなく、語られたものである。それはあたかもわたしたちが自分の耳で聞くことができるかのように、確かにわたしたちに語りかける神のみ声である。もしわたしたちがこれを悟るなら、どれほどの畏敬の念をもって神のみ言葉を聞くことであろう。そしてどれほどの熱心さをもって、そのページをめくり探ることであろう。聖書を読むことが、いと高き者の謁見室と見なされるようになる。(レビュー・アソド・ヘラルド 1903 年 3 月 31 日)

キリストを映して

Reflecting CHRIST



5月 「身体的また知的発達によってキリストを映す」

5月1日

栄光に満ちた命の木

「主なる神は東のかた、エデンに一つの園を設けて、……また主なる神は、見て美しく、食べるに良いすべての木を土からはえさせ、更に園の中央に命の木と、善悪を知る木とをはえさせられた。」(創世記 2:8, 9)

人間は神にかたどって造られたのである。彼の性質は、神のみ旨と調和していた。人間の知力は、神の事物を理解することができた。彼の愛情は清く、食欲や情欲は理性の支配のもとにあった。彼は、神のかたちをしていて、神のみ旨に完全に服従していたので、清く、幸福であった。人間が創造主によって造られたとき、彼は背が高く、完全に均整がとれていた。彼の顔は、血色がよく、生命と歓喜の光に輝いていた。……

神が造られたすべてのものは美を窮め、清い夫婦の幸福の増進のために、欠けているものは、何一つなかった。しかし創造主は、特に彼らの家庭のために、一つの園をそなえて、その愛のもう一つのしるしをお与えになった。この園には、種々さまざまな樹木があつて、その多くはかおり高く、おいしい実をつけていた。……園の中央には、いのちの木があつて、その美観は、他のすべての木にまさっていた。木の実は、金や銀のりんごのように見え、生命を永続させる能力があつた。……

園の中央にあるいのちの木の近くに善悪を知る木があつて、われわれの祖先の服従と信仰と愛を試験するものとなっていた。彼らは、ほかのどの木の実も自由に食べることを許されていたが、これは食べることを禁じられていて、その罰は死であつた。……

彼らは、天使たちの来訪を受け、何の隔てもなく、創造主と交わることを許された。彼らは、いのちの木によって与えられた生気に満ち、彼らの知力は、天使よりわずかに劣るだけであつた。(人類のあけぼの上巻 20 ～ 26)

われわれの祖先は、……神と聖天使たちとの交わりを楽しむことになっていた。しかし、彼らが永久的に確実なものとされる前に、彼らの忠誠が試みられなければならなかった。……完全で永続的な服従が、永遠の幸福の条件であった。人間は、こうした条件のもとにあって、いのちの木に近づくことができた。(同上 24, 25)

永遠に生きるためには、人間は、いのちの木の実を食べなければならなかった。これが取り去られると、彼の生命力は次第に衰えていって、ついには絶えてしまう。……彼らが、いのちの木の実を食べ……ることを、サタンは望んでいた。だが、人間の墮落後、直ちに聖天使がいのちの木を守る任命を受けた。……アダムの家族の者はだれもこのさくを越えて、いのちの木の実を食べることはできなかった。だから、不死の罪人はいないのである。(同上 49, 50)

5月2日

律法の普遍的な支配権

「地と、それに満ちるもの、世界と、そのなかに住む者とは主のものである。主はその基を大海のうえにすえ、大川のうえに定められた。」(詩篇 24:1, 2)

すべての被造物には神の印がみられる。自然は神についてあかししている。感じやすい心をもった人ならだれでも、宇宙の驚異と神秘をまのあたりに見るとき、無限の力の働きを認めないではいられない。地が豊かな産物を生じ、年ごとに太陽の周囲を運行しつづけるのは、地球の固有のエネルギーによるのではない。惑星は人の目に見えない手に導かれて天の軌道をめぐる。神秘的な生命は自然のあらゆるものにゆきわたっている。それは、無限大の空間に無数の世界を保ち、夏のさわやかな風に浮かぶ小さな昆虫を生かし、飛びかうつばめを羽ばたかせ、鳴くからすのひなにえさをあたえ、つばみを花とひらかせ、花に実をむすばせる生命である。

自然をささえている同じ能力が人の中にも働いている。星や微生物をみちびくのとと同じ大いなる法則が人の生命を支配している。体内の生命の流れを調節する心臓の働きを支配する法則は、魂の裁判権をお持ちになる偉大な英知の神の法則である。いつさいの生命は神から出ている。生命の真の活動範囲は、神との調和の中にのみ見いだされる。神によって造られたすべてのものにとって、条件は同一である。すなわち生命は神の生命をうけることによって維持され、創造主のみこころとの調和の中に生命の営みがなされるのである。知的に靈的に、あるいは肉体的に神の法則を犯すことは、自分自身を宇宙の調和の外におくことであり、不和と無秩序と破滅をもたらすことである。

自然の教えをこのように解釈することを学ぶ者には、あらゆる自然が光を放ち、世界は教科書、人生は学校となる。人と自然と神との調和、宇宙を支配している法則、罪の結果、—こういうことは必ず人の心に印象を与え、品性を

形造らないではおかない。……

できるだけ、子どもたちを、幼い時から、自然というこのすばらしい教科書が目の前に開かれているところに置かなければならない。子供たちは、大芸術家である神によって天という移り変わるカンバスに描かれたすばらしい景色をながめ、……季節の変化に示される神秘をみまもる。こうして神のすべてのみわざを通して、創造主について学ぶべきである。

真の教育の基礎を、これほど堅固にそして確実に築くことは、他の方法ではできない。しかしたとえ子供でも、自然と接触するときに、そこに当惑の原因を見いだすであろう。彼は、そこに相反する勢力が働いていることをみとめないではいられない。この点において自然は解説者を必要とする。自然界にまであらわされている悪の姿をみてわれわれはみな同じように、「それは敵のしわざだ」という不幸な教訓を学ぶのである。カルバリーに輝く光によってのみ、自然の教えは、正しく読まれる。(教育 104 ～ 106)

5月3日

自然の法則は、神の律法である

「わが子よ、わたしの言葉に心をとめ、わたしの語ることに耳を傾けよ。……それは、これを得る者の命であり、またその全身を健やかにするからである。」(箴言 4:20-22)

心と魂は、肉体を通して表現されるのであるから、知的また霊的な力は肉体の力と活動によって大いに左右される。肉体の健康を増進するものはすべて強い精神と均斉のとれた品性の発達を助長する。人は健康でなければ、自分自身に対する義務を、また人類同胞に対する義務と創造主に対する義務を、はっきり理解することも完全に果たすこともできない。したがって健康は品性と同様に忠実に保護されなければならない。生理衛生の知識はすべての教育の働きの根本でなければならない。……

人生の、若々しさと力を持った青少年たちは、そのはちきれるばかりのエネルギーの価値を認識していない。それは黄金よりもとうとく、進歩にとっては学問や地位や富よりもたいせつなものであるのに、何と軽くみられ、何と無謀に浪費されていることであろう。健康を犠牲にしてまで富や権力を求めて奮闘し、もう一步で目的を達するところで倒れて力を失う人がどんなに多いことであろう。しかしすぐれた肉体の持久力を持っている人は目的の物を手に入れることができる。健康の法則を無視した結果、不健全な生活からさらに悪い習慣に陥り、現世と来世の一切の希望を犠牲にしなければならない人がどんなに多いことであろう。……

青少年に教えなければならないことは、自然の法則は神の律法であるということ、すなわちそれは神の十戒と全く同じように神聖なものであるということである。神は、肉体の機能を支配する法則を、身体のすべての神経と筋肉と組織にしるされた。これらの法則の一つでも不注意にあるいは故意に犯すこ

とは、創造主に対する罪惡である。したがって、これらの法則について徹底的な知識を授けることが必要である。……

肉体が精神に及ぼす影響はもちろん、精神が肉体に及ぼす影響も強調されなければならない。精神活動によって促される頭脳の電力は、身体の一部に生気をあたえ、病気に対する抵抗を測り知れないほど助ける。……健康を保つにも回復するにも、意志力と克己がたいせつであること、すなわち、怒りや不満や利己心や不純な心は健康を低下させるばかりでなく、破滅的な影響さえあたえ、これに反して快活、無我、感謝の心には生命を与えるおどろくべき力があるということを明らかにしなければならない。聖書の中には、「心の楽しみは良い薬である」という生理学的な真理があるが(箴言 17:22)、これはわれわれの考えなくてはならない真理である。(教育 232 ～ 234)

5月4日

わたしたちのからだと霊をもって、 神の栄光をあらわす

「あなたがたは、代価を払って買いとられたのだ。それだから、自分のからだ（と自分の霊）をもって、神の栄光をあらわしなさい。」（コリント第一 6:20）

わたしたちはどのようにして自分の教師であられるお方に従い、学ぶであろうか。このお方のみ言葉を探り、このお方のご生涯とみわざに親しむことができる。このお方のみ言葉を自分の魂のためのパンのように、受けなければならない。人のおかれるすべての領域において、主イエスはご自分の足跡を残された。わたしたちはこのお方に従うのが賢明である。このお方は御霊によって語られるのであるから、わたしたちはその御霊を大事にしなければならない。イエスのうちにあるがままの真理を提示しなければならない。特別に心の純潔と愛において、このお方に従わなければならない。自己はキリストと共に神のうちに隠されなければならない。そうすれば、わたしたちの命であられるキリストが現われるとき、わたしたちもまた、栄光のうちにこのお方と共に現われるのである。……

神の御霊の靈感によって、使徒パウロは、「何事をするにも」、すなわち食べたり飲んだりといった自然の行為をするにも、ゆがんだ食欲を満足させるためではなく、責任感の下で、「すべて神の栄光のためにすべき」だと記している。人のすべての部分が守られなければならない。わたしたちは、胃の中に入れられたものが、高く聖なる思想を思いから払拭することがないように見張っていないなければならない。

わたしは自分がやりたいようにしてはいけませんか、と尋ねる人がある。知的に食し、自分たちのあらゆる習慣を神が制定された法則に従わせる必要性を彼らの前に提示すると、あたかもわたしたちが彼らから非常によいものを取

り上げようとしているかのように語るのである。

個々の一人びとりに属する権利がある。わたしたちには自分自身の個性があり、独自性がある。だれも自分の独自性を他人のそれに没入させることはできない。すべての人は自分自身の良心の述べるところに従って自分自身で行動しなければならない。わたしたちの責任と感化力に関していえば、わたしたちが自分の命をこのお方から受けているのだから、神に従う責任がある。これは人から得ることはできない。ただ神から得るのである。わたしたちは創造と贖いによってこのお方のものである。わたしたちのからだそのものが、自分自身のものではない。自分の好きなように扱ったり、衰弱へ導く習慣によって不能にし、神に完全な奉仕をお捧げできないようにすべきものではない。わたしたちの命もあらゆる機能もこのお方に属するものである。このお方は毎瞬間、わたしたちを保護しておられる。生ける機械が動き続けるように守っておられる。もしわたしたちがそれを一瞬でも動かすように任されたら、必ず死んでしまう。わたしたちは完全に神に依存しているのである。

わたしたちが神に対する自分たちの関係と、わたしたちに対するこのお方の関係を理解するとき、大きな教訓を学ぶ。「あなたがたは知らないのか。……あなたがたは、……自分自身のものではないのである。あなたがたは、代価を払って買いとられたのだ」とのみ言葉は、記憶の間にかけているべきである。それは、いつもわたしたちが自分のタラントや財産や感化力やわたしたち自身に対する神の権利を認めることができるためである。わたしたちはどのようにこの神の賜物を、思いにおいて、魂において、からだにおいて扱い、キリストが買われた所有として、このお方に健全で芳しい〔喜ばれる〕奉仕をお捧げできるかを学ぶべきである。(特別な証 A シリーズ 9 巻 58, 59)

5月5日

わたしたちは天の原則を表わすべき

「だから、『彼らの間から出て行き、彼らと分離せよ、と主は言われる。そして、汚れたものに触れてはならない。触れなければ、わたしはあなたがたを受けいれよう。』（コリント第二 6:17) 」

自称キリスト者たちが、毎年、無用で有害な道楽のために莫大な額を消費している一方で、魂は生命の言葉が与えられずに減びている。彼らは、什一や献金において神のものを盗み、貧しい人々の救援や福音の支持に与えるよりもっと多くのものを、破滅的な欲望の祭壇で焼き尽くしている。もしも、キリストの弟子であると公言する者がみな、真に清められるならば、彼らの財産は、無用で有害な道楽のために費やされるかわりに、主の金庫におさめられ、キリスト者は、節制と克己と自己犠牲の模範となるであろう。そのとき彼らは、世の光となるのである。

世界は、あげて放縦に陥っている。「肉の欲、目の欲、持ち物の誇」が大多数の人々を支配している。しかし、キリストの弟子たちは、より聖なる召しを受けている。「彼らの間から出て行き、彼らと分離せよ、と主は言われる。そして、汚れたものに触れてはならない」。神の言葉に照らしてみても、邪悪な習慣や世俗の欲望の満足を全く放棄しない清めは真実のものでないという、われわれの主張は正しい。

「彼らの間から出て行き、彼らと分離せよ、……そして、汚れたものに触れてはならない」という条件に従うものに、神は、「わたしはあなたがたを受けいれよう。そしてわたしは、あなたがたの父となり、あなたがたは、わたしのむすこ、むすめとなるであろう。全能の主が、こう言われる」と約束なさるのである（コリント第二 6:17, 18）。神の事柄において豊富な体験を持つことは、すべてのキリスト者の特権であり義務である。「わたしは世の光である。わたし

に従って来る者は、やみのうちを歩くことがなく、命の光をもつであろう」とイエスは言われた(ヨハネ 8:12)。「正しい者の道は、夜明けの光のようだ、いよいよ輝きを増して真昼となる」(箴言 4:18)。信仰と服従は、一步ごとに、「少しの暗いところもない」世の光に、魂を密接に結びつける。義の太陽の輝く光線が、神のしもべたちの上に照り輝く。そして彼らは、その光を反射しなければならない。ちょうど天空の星が、天には大いなる光があつて、その栄光によって自分たちは輝いているのだということを、われわれに告げているように、キリスト者は、自分たちが賛美し、倣うべき品性をお持ちの神が、宇宙の王座におられるということを、あらわさなければならない。神の霊の恵み、神の品性の純潔と聖潔とが、神の証人たちによってあらわされるのである。(各時代の大争闘下巻 204～206)

この世におけるわたしたちの働きは、天を流れている純潔な原則を表すことである。(上を仰いで 291)

5月6日

健康は祝福であるが、 その価値を認めるものは少ない

「あなたがたは知らないのか。自分のからだは、神から受けて自分の内に宿っている聖霊の宮であって、あなたがたは、もはや自分自身のものではないのである。」(コリント第一 6:19)

健康は祝福であるが、その価値を認めるものは少ない。しかし、知的、体的能力が力を発揮するには、体が健康でなければならない。わたしたちの感情は、身体の中に座を占めているから、身体も精神も最上の状態に保つようにして、わたしたちの才能を最高に活用しなければならない。

体力を減退させるものは、なんであっても、精神を弱め、善悪の識別力を弱める。だんだん善を選ぶ力がなくなり、正しいと知りつつ、それを行なう意志の力がなくなる。

身体の諸機能を誤用するならば、神の栄光のために用いることができるはずの寿命をちぢめ、神からゆだねられた仕事を果たすことができなくなる。悪い習慣をつづけたり、夜ふかしをしたり、健康を犠牲にしてまで食欲を満足させたりすることは、体を虚弱にする原因である。運動を怠ったり、心身を過度に疲れさせたりすると、神経系統の平衡が失われる。このようにして、自然の法則を無視したために寿命をちぢめ、奉仕ができなくなった人びとは、神に対して盗みの罪を犯している。

彼らは、また、同胞からも盗んでいることになる。他を祝福する機会、すなわち神がこの世界に彼らをお送りになったたいせつな仕事を、自分自身で短縮してしまった。そればかりではなくて、その短い期間に果たし得たはずのことさえできなくなってしまった。こうして、わたしたちが有害な習慣のために、世界から善を奪うときに、神はわたしたちに有罪の宣告を下されるのである。

肉体の法則に反することは道徳律に反することである。神は、道徳律の創設者であると同時に、肉体の法則の創設者でもある。神は、人間にお任せになったすべての神経とすべての筋肉とすべての機能の上に、神の律法をご自分の手でお書きになった。であるから、わたしたちの体の組織のどの部分の悪用であっても、それは、その律法の違反になるのである。

神の働きをするために必要な状態に身体を保つためには、すべての者が人体の構造について十分な知識を持っていなければならない。神の性質が人によって、十分にあらわされるように、肉体の命をたいせつに保存し発達させなければならない。肉体の組織と霊的生命との関係を明らかにすることは、教育の最も重大な科目の一つである。家庭でも、学校でも、この点によく注意しなければならない。……だれでも、命と健康を増進させるように最善をつくさなければならない。

わたしたちの習慣は、神の支配下におかれた心の支配を受けなければならない。(キリストの実物教訓 322, 323)

5月7日

自然はその法則に従う者を尊ぶ

「ダニエルは王の食物と、王の飲む酒とをもって、自分を汚すまいと、心に思い定めたので、自分を汚させることのないように、宦官の長に求めた。」(ダニエル 1:8)

わたしたちは聖書の見地から節制の主題を考えない限り、正しい理解を得ることはできない。そして、真の節制とそれに伴う祝福について、バビロンの宮廷における預言者ダニエルとその友だちの歴史によって提供されている以上に、包括的かつ力強い実例はない。……

これらの青年たちを王の宮廷に連れて行き、真の神を知ることも畏れることもない人々との交わりに入れたのは、彼ら自身の誇りや野心ではなかった。彼らは他国における捕囚であり、無限の知恵なるお方が、彼らをそのいた場所におかれたのであった。彼らは自分の立場を、その困難や危険と共に考慮した。その上で、神を畏れて、彼らは決心したのである。王の不興という危険を冒してでも、彼らは自分たちの父祖たちの宗教に真実であろうとした。彼らは、自然の法則と道德律のいずれも、神の律法に従った。そして神の祝福が彼らに強さと見るべき姿と知力を与えたのである。

これらの青年たちは人生の初期において正しい教育を受けていた。そして今、家庭の感化力や聖なる交わりから引き離されて、彼らは自分たちの幼年時代の指導者を敬った。彼らの自己否定の習慣は目的の真剣さ、勤勉さ、堅固さと合わさった。彼らには娯楽や虚無や愚行に浪費する時間はなかった。彼らは誇りや無価値な野心に動かされていたのではなかった。ただ彼らは、自分たち自身の踏みにじられた民の誉れと、自分たちが僕としてお仕えしているお方の栄光のために、信用に足る者としてふるまおうと努めた。

神はいつも正しい者を尊ばれる。大いなる勝利者によって征服された各地

の最も有望な青年たちがバビロンに集められた。しかし、彼らすべての中でも、ヘブルの捕囚に並ぶ者はなかった。まっすぐな姿勢、しっかりとしたしなやかな足どり、汚されていない息—みな数多くある良い習慣の裏づけであり、自然の法則に従順な者に伴う高尚さのしるしであった。そして彼らの能力と学識が三年間の訓練の終わりに王によって試されたとき、「ダニエル、ハナニヤ、ミシヤエル、アザリヤにならぶ者」がなかった。彼らの鋭い理解力、彼らの精選された正確な言葉、彼らの広く多岐に渡る知識は、損なわれていない体力と彼らの知力の活力を証していた。

ダニエルとその友だちの記録が靈感の言葉のページに記録されたのは、後に続くすべての時代のすべての青年たちの益のためである。(サインズ・オブ・タイムズ 1886 年 2 月 11 日)

5月8日

厳密な節制の重要性

「あなたの王は自主の子であって、……力を得るために、適当な時にごちそうを食べる国よ、あなたはさいわいだ。」(伝道の書 10:17)

これらの〔ヘブルの〕青年たちの経験からの教訓は、わたしたちがみな良く考えるべきものである。わたしたちの危険は欠乏からではなく、豊富さから生じる。わたしたちは絶えず、過度になる誘惑を受ける。しかし、自分たちの力を神の奉仕のために損なわずに保ちたい人々は、すべての有害もしくは低下させる放縱をまったく止めると同様に、このお方のあふれる豊かさをを用いる際に厳密な節制を守らなければならない。

身体の正しい習慣は、精神的な優位性を促進する。知力、体力、長寿は、不朽の法則に依存している。このことについて、偶然やたまたまということはない。天は人が自然の法則を犯す結果から守るために介入することはない。すべての人は自分自身の運命の設計者であるとの格言には大いに真実がある。両親には自分の息子や娘に与える教育や訓練と同様に、品性の印に対して責任があるが、この世におけるわたしたちの立場や有用性が、大いにわたしたち自身の一連の行動にかかっていることは、なおいっそう真実である。

若いも若きも、命の法則を犯す一つ一つの行為のために、自然は徹底的に抵抗することを覚えていよう。刑罰は、身体能力と同様に精神的にも下る。そしてそれは罪ある軽薄な人だけにとどまらない。彼の犯した罪の影響は、彼の子供たちにも見られ、こうして遺伝的な悪は子孫に伝えられて、三代四代にまで及ぶのである。……

わたしたちは自分たちの父祖たちの悪習慣に苦しんでいる。しかし、どれほど多くの人々が、彼らよりももっと悪いあらゆる方法をとっていることであろう。毎年、何百万ガロンというアルコール飲料が飲まれ、何百万ドルもタバコ

に費やされている。アヘン、茶、コーヒー、タバコ、アルコール飲料は、急速に人類のうちにまだ残されている生気を絶やしていつている。……

アルコール飲料の使用は理性を追い出し、心をあらゆる純潔で聖なる感化力に対してかたくなにする。……

ダニエルのような人物が今必要とされている。すなわち、自己否定と根本的な節制改革者となる勇気をもつ人々である。すべてのクリスチャンは、自分の模範と感化力が改革の側にあることを確かめよう。福音の牧師たちは、民を教え、警告することに忠実であらう。そしてすべての人は、二つの世界における自分たちの幸福が、その正しい活用にかかっていることをおぼえていよう。
(サインズ・オブ・タイムズ 1886 年 2 月 11 日)

5月9日

すべて生きている器官は主のものである

「王が彼らにさまざまな事を尋ねてみると、彼らは知恵と理解において、全国の博士、法術士にまさること十倍であった。」(ダニエル 1:20)

ダニエルとその友だちは、なぜ王の食卓から食べることを拒んだのであろうか。なぜ彼らは王の肉料理や酒を飲むことを拒んだのであろうか。なぜなら、彼らはこれらの種類の食物は、精神や身体の構造を神の奉仕をするのに最善の健康状態に保つものではないことを教えられていたからである。これらの青年たちは、自分たちの食物に対して責任を持っていた者に、自分たちを王の贅沢にあずからせたり、彼の酒を飲むようにさせたりしないようにと、最も熱心に訴えた。彼らは自分たちをただ十日の間ためし、その後彼らを調べて、彼らの身体的状況から、節制した食事が彼らに不利かどうかを判断してほしいと請うた。彼らの試験されたとき、その結果は決定的に彼らに有利なものであった。

王の食卓から贅沢なものを食べ、彼の酒を飲んだ青年たちはその反対であった。彼らの目から澄んだ生氣は消えた。赤みをおびた健康的な輝きは彼らの顔色から失せた。そこで、四人のヘブルの捕囚たちは彼らの選んだ食事を取ることが許された。思いと品性にどのような影響があったことであろう。彼らは良心的に肉と酒の刺激を拒んだ。彼らは自己否定において神のみ旨に従い、神はご自分の是認を示された。このお方はご自分の僕たちがそのすべての生活習慣において確固たる原則を固守することによってご自分を尊ぶように望まれる。彼らの顔色は身体的な健全さと道徳的な純潔さの証書である。

「この四人の者には、神は知識を与え、すべての文学と知恵にさとい者とされた。ダニエルはまたすべての幻と夢とを理解した」。これらの青年たちは主を自分たちの教育者とした。天の黄金の鎖が有限な者を無限な者となす。

彼らは神性にあずかる者であつた。彼らは自分自身が神との接触を保つように非常に気をつけた。彼らは祈り、研究し、自分たちの実生活に厳密に良心的かつへりくだった思いを入れた。……主のみ言葉が彼らの肉であり、飲み物であつた。「王が彼らにさまざまな事を尋ねてみると、彼らは知恵と理解において、全国の博士、法術士にまさること十倍であつた」。……

信仰の子らが熱心な祈りをもって、あますことなく神に献身することを決心するとき、主は彼らの信仰を尊び、明晰な頭脳をもって彼らを祝福される。

……

魂の宮であり、それが働くための媒介である肉体そのものが、主のものである。わたしたちには、生きた機械のどの部分でもなおざりにする権利はない。生きた器官のすべての部分が、主のものである。わたしたち自身の身体器官の知識が、わたしたちにすべての肢体が義の器として神の奉仕をしなければならないことを教えるべきである。(特別な証 9 巻 A シリーズ 60 ～ 62)

5月10日

肉と霊の関係

「すなわち、自分の肉にまく者は、肉から滅びを刈り取り、霊にまく者は、霊から永遠のいのちを刈り取るであろう。」(ガラテヤ 6:8)

体内には低い欲望があつて、それがからだを通して活動する。「肉」「肉体的な」また「肉体的欲望」という言葉は、低い墮落した性質を総括している。肉体はそれ自体神のみこころにさからって行動することはできない。わたしたちは、情と欲と共に自分の肉を十字架につけなければならない。ではどうすればよいか。からだに苦痛を加えるべきであろうか。加えてはならない。だが罪の誘惑にとどめをさしなさい。墮落した思いを追い払いなさい。すべての思いをイエス・キリストの中にとりこしなさい。すべての動物的な欲望を、魂のより高い力に屈服させなさい。神に対する愛が最高に支配していなければならない。キリストは分裂していない王座にすわりたまわねばならない。わたしたちのからだは、キリストに買い取られた財産であると考えねばならない。からだの各部分は義の器とならなければならない。(アドベンチスト・ホーム 131, 132)

神のご要求の厳密な遵守は、体と精神の健康にとって有益である。道徳的また知的達成の最高の標準に到達するために、神から知恵と力を求め、人生のすべての習慣において厳しい節制を守る必要がある。ダニエルとその友達の経験において、わたしたちには食欲の放縱への誘惑に対する原則の勝利という実例がある。それはわたしたちに宗教の原則を通して、青年たちは大きな犠牲を払ったとしても、肉の欲に対して勝利し、神のご要求に忠実であり続けることができることを示している。……

わたしたちは使徒が、神のあわれみによって、自分の体を「神に喜ばれる、生きた、聖なる供え物として」ささげるようにと訴えた言葉を考慮すべきである。これが真の聖化である。それは単なる理論でも感情でも言葉の形式でもなく、

生きた活発な原則であり日常生活に入るものである。それはわたしたちの飲食や衣服の習慣が、身体的、精神的、また道徳的健康維持を確保するようなものであり、それによってわたしたちが自分の体を主に一悪習慣で墮落した供え物ではなく―「神に喜ばれる、生きた、聖なる」供え物として捧げることができることを要求する。……

肉体と精神の性質には緊密な関係がある。……どこにしようと、真に聖化されている人々は、正しい身体習慣を維持することによって道徳的標準を高め、ダニエルのように、他の人々に節制と自己否定の模範を残す。すべての墮落した食欲は、戦う欲となる。自然の法則と争うすべてのことは、魂の病的な状態を生みだす。……

クリスチャンは、キリストの奉仕に捧げるすべての機能が活力に満ちた状態を維持するために、どれほどの注意を払って、自分たちの習慣を規則正しいものとすべきことであろうか。(レ'ュー・ア'ンド・ヘ'ラルド' 1881年6月25)

5月11日

健康を与える野外生活の価値

「愛する者よ。あなたのたましいがいつも恵まれていると同じく、あなたがすべてのことに恵まれ、またすこやかであるようにと、わたしは祈っている。」（ヨハネ第三 2）

自然の事物は、体、思い、そして魂に健康を与えるために備えられた神の祝福である。それらは健康な者が健康でい続けるために、また病気の者が回復するために与えられている。水治療と併せると、世の中のあらゆる薬物療法よりも健康回復に効果がある。

田舎では、病人は自分の注意をひき、自分自身や自分の苦痛からそらせるものを数多く見出す。どこにでも、彼らは自然の美しいもの—花々、野原、豊かな宝をたわわにつけた果樹、ありがたい木陰を投げかけている森林の木々、また様々な緑や多くの形態の命のある丘や谷—をながめ、楽しむことができる。

また周囲の環境を楽しむことができるばかりでなく、同時に尊い霊的な教訓を学ぶのである。神のすばらしいわざに囲まれて、彼らの思いは見えるものから見えないものへと引き上げられる。自然の美しさは彼らが新地の比類のない魅力を考えるよう導く。新地にはうるわしさを損なうものも、汚点をつけたり破壊したりするものもなく、病気や死を生じさせるものもない。

自然は神の医者である。新鮮な空気、喜ばしい日光、美しい花々や木々、果樹やぶどう畑、そしてこれらの環境の中での野外生活は健康を与える一命の万能薬—である。野外生活は多くの病弱な者が必要としている唯一の薬である。その影響力は、流行的な生活、すなわち身体的、精神的、また霊的能力を弱め、破壊する生活によって生じた病気を癒すのに強力である。

都会生活、多くの照明や街路の騒音に慣れている疲れた病弱な者にとって、

静かでのびのびした田舎はどれほどありがたいことであろう！彼らはどれほど熱心に自然の光景へ向かうことであろう。彼らは、田舎にある治療院の利点をどれほど喜ぶことであろう。そこで彼らは屋外に座り、日光を喜び、木や花の香りを吸い込むことができる。松のバルサムや、杉やもみの香りには、命を与える特性がある。また他にも健康を促進する木々がある。そのような木を容赦なく切り倒すことがないようにしよう。それらが豊富にあるところでは大事にし、わずかしかなければもっと植えなさい。……

魅力的な田舎の環境の中で生活することほど健康と幸福を回復させる助けになるものはない。……神がわたしたちを助けて下さって、日光や新鮮な空気の命を与える力を最大限に活用することができるように！（教会への証 7 巻 76～79）

5月12日

青年は各々自ら決心しなければならない

「しかし、すべて競技をする者は、何ごとにも節制をする。」(コリント第一 9:25)

われわれの生活が意志によって支配されるか、それとも肉体によって支配されるかを決定するのはわれわれ個人個人の責任である。少年少女たちは、それぞれに自分で自分の一生をどのように形造るかを選ばなければならない。そして今後どういう勢力と交渉しなければならないか、またどんな感化によって品性と運命が形造られるかということを知るために労を惜しんではならない。

不節制は、すべての人の防がなければならない敵である。この恐るべき悪が非常に勢いでひろがっているのをみるときに、人類を愛する者はだれでも立ち上がってこれと戦うにちがいない。(教育 240)

すべてのことに、節制と規律を守ることには、ふしぎな力がある。優しい静かな性質は人生行路を平らかにするのに役立つが、これを助長するには、節制や規律を守ることが環境や生まれつきの才能よりも力がある。同時に、こうして身につけた自制の能力は、ひとりびとりの人間を待ちうけているきびしい義務や現実と取り組んで、これに成功する上に最も価値のある資格の一つであることがわかる。

知恵の「道は楽しい道であり、その道筋はみな平安である」とある(箴言 3:17)。王冠をつけた帝王よりも高い運命をになう機会を前にしているわが国の青少年たちは、賢人ソロモンのつぎの言葉に含まれている教訓を深く心に思わなくてはならない。「その君たちが酔うためでなく、力を得るために、適当な時にごちそうを食べる国よ、あなたはさいわいだ」(伝道の書 10:17)。(同上 244, 245)

「わたしの教を忘れず、わたしの戒めを心にとめよ。そうすれば、これはあ

なたの日を長くし、命の年を延べ、あなたに平安を増し加える。」「それは、これを得る者の命であり、またその全身を健やかにするからである」と神は仰せになっている。「ここよい言葉は……魂に甘く、からだ(骨)を健やかにする」と、聖書に言明されている(箴言 3:1, 2, 傍注 ; 4:22, 16:24)。

青少年たちは、「いのちの泉はあなたのもとにあり」と聖書に述べられているみ言葉の基礎となっている深い真理をさとらなければならない。神は万物の創始者であるばかりでなく、生けるすべてのものの生命であられるのである。われわれは日光や清いさわやかな空気や、食物を通して、われわれの肉体を築き、われわれの力をささえるものを受けが、それはとりもおさず神の生命である。われわれが、時々刻々に生存するのは、神の生命によるのである。罪のために悪用されているものを除けば、すべての神の賜物は、生命と健康と喜びに役立つのである。

「神のなされることは皆その時にかなって美しい」とある(伝道の書 3:11)。真の美は、神のみわざを傷つけることによって得られるのではなく、それは、万物を創造し、それらの美しい完全な姿に喜びを見いだされる神の法則に調和することによって得られる。(同上 234, 235)

5月13日

運動は健康に欠くことができない

「若い人の榮えはその力……である。」(箴言 20:29)

健康に注意することは、わたしたちの最高に重要な義務の一つである。わたしたちはこの責任を自分自身に対して、社会に対して、そして神に対して負っている。若い男女は一般的に自分たちの健康に関して無頓着である。……

すべての器官の健康にとって運動は不可欠である。ある部分の筋肉が他の部分の不活動になれば、生きた機械は知的に働いていないことになる。

身体運動を行うと、循環ははやくなる。心臓はよりはやく血液を受け、それをよりはやく肺に送る。肺はもっと活力に満ちて働き、より大量の血液を備える。その血液はもっと強い力でからだ全体を通じて送られる。運動は身体のすべての部分に新しい命と力を与えるのである。

神経は扱われ方によって、力を得るもすれば、失いもする。もしあまりに長く、あまりに厳しく用いられるならば、それらは酷使され、弱くなる。もし適切に用いられるならば、それらは力を得るのである。

健康を得るためには、行動の均衡が保たれていなければならない。頭脳はこれと調和がとれていなければならない。……もし身体的な運動が退屈だとみなされているなら、もし思いが身体の種々の部位の運動に関心をもっていないなら〔益することはないであろう〕。思いは筋肉の運動に関心をもっていなければならない。

青年の教育において、身体運動は頭脳の重荷と結びあわされていなければならない。(手紙 6, 1885 年)

神のご命令への完全な従順は、存在の法則への一致を求めている。……

身体運動のために費やされた時間は無駄ではない。絶えず本を見つめて、野外での運動をほとんどしない生徒は、自らを害しているのである。体の様々

な器官や機能をバランスよく働かせることは、それぞれの最上の働きのために不可欠である。頭脳に絶えず負荷がかかっている一方で、他の器官が不活動であれば、体力にも知力にも損失を被る。体力はその健康的な調子を奪われ、知力はその新鮮さと活力を失い、病的な興奮がその結果なのである。

男女がバランスのとれた思考力をもつためには、存在のあらゆる力が動員され、発達させられるべきである。……

〔主は〕わたしたちがご自分の所有であることを覚え、体を純潔に健康に保つためにご自分と結合し、全存在がこのお方へと聖化されるために、わたしたちが原因から結果を考えるように命じておられる。(親と教師への勧告 295 ～ 300)

5月14日

適切な運動

「全てあなたの手のなしうる事は、力をつくしてなせ。あなたの行く陰府には、わざも、計略も、知識も、知恵もないからである。」(伝道の書 9:10)

様々な商売や職業を学ばなければならない。そうすれば大いに多岐にわたる知的また身体的能力を働かせることになる。座業を行う職業が最も危険である。なぜなら、それらによって新鮮な空気や日光が奪われ、ある一部分の機能だけを緊張させる一方では、他の器官は不活動のゆえに弱くなるからである。人々は自分の働きを進め、自分の仕事を完成し、そしてまもなく墓に横たわるのである。

それよりはるかに好ましいのは、野外にいて筋肉を働かせると同時に、頭脳も同様に使い、あらゆる器官に働きをなす特権が与えられている職業について人の状態である。郊外に住んで、偉大な芸術家のわざをながめながら、野外で労する人々には、新しい光景が絶えずあらわされる。彼らが自然という書を研究すると、和らげ、制する感化力が彼らに及ぶ。なぜなら、彼らは神の保護が、天空にある栄光の太陽から茶色い小さな雀や命のある最も小さい虫に至るまで、万物に及んでいることを悟るからである。

天の大君はこれらの神の創造の事物を、ご自分の愛の証拠として指し示してこられた。花を飾られたお方は、こう言われる、「野の花がどうして育っているか、考えて見るがよい。働きもせず、紡ぎもしない。しかし、あなたがたに言うが、栄華をきわめた時のソロモンでさえ、この花の一つほどにも着飾ってはいなかった」。……主はわたしたちの教師であられる。そしてこのお方の教えの下に、わたしたちは自然から最も尊い教訓を学ぶことができる。

世界は罪ののろいの下にいるが、なおその衰えのうちにあってさえ、それは非常に美しい。もしそれが地を踏む人間の邪悪で墮落した行為によって汚さ

れていなければ、わたしたちは神の祝福をもってこの世界をありのままに楽しむことができるのである。しかし、無知、娯楽愛好、罪深い習慣、墮落した魂と体と霊が、世界を道徳的らい病に満ちたものとしてしまった。致命的な道徳的マラリヤが幾千、幾万もの人々を滅ぼしている。わたしたちの青年を救うために何ができるであろうか。わたしたちにできることはほとんどないが、神は生きて、治めておられる。そしてこのお方は多くのことをなすことがおできになる。……

わたしたちは偽物や人工的なものを遠ざけ、競馬やカード遊び、くじや懸賞、飲酒、喫煙を捨てる一方で、純潔で、高尚な、高める性質の楽しみのもとを供給しなければならない。わたしたちは……目が絶えず人の住居にとどまるようなところではなく、神のみわざにとどまるような場所、都市が提供するものとは異なった訪問するのに興味深い場所を……選ぶべきである。自然が感覚に語りかけることのできる場所に〔彼らを〕おらせなさい。そうすれば、自然の声のうちに彼らが神のみ声を聞くことができる。彼らがこのお方のすばらしいみわざをながめることができ、自然を通してその創造主をながめることができる場所におらせなさい。(クリスチャン教育の基礎 319, 320)

5月15日

人体の不思議

「というのは、神がわたしたちに下さったのは、臆する霊ではなく、力と愛と
慎みとの霊なのである。」(テモテ第二 1:7)

わたしたちは神の作品である。わたしたちは、「恐るべく、くすし」く造られた
とみ言葉は述べている。神はわたしたちの心のためにこの生きた住居を備え
てくださった。それは「不思議に、つづり合わされ」、主ご自身が聖霊の住ま
われる所として準備なされた宮である。思いは人全体を支配する。わたしたち
の行動は、善であれ悪であれ、みな思いに源をもっている。神を礼拝し、わ
たしたちを天の存在者に結びつけるのは、思いである。それなのに多くの人は、
この宝物を入れる容器(人体)について理解しようとしなくて一生を過ごして
しまう。(家庭の教育 386)

すべての身体的な器官は、思いのしもべである。そして神経はその命令を
体の各部に伝える使者であり、生ける機械の動きを導く。運動は、身体的な
発達の重要な助けである。それは血液の循環を早め、体組織の調子を整える。
もし筋肉が使われないままにされていると、まもなく血液がそれらに十分な栄
養を与えないことが明らかになる。大きさと強さが増加する代わりに、それら
は固さと弾力性を失い、柔らかく弱くなってしまう。不活動は主が人体に確立
された法則ではない。すべての部分―脳、骨、筋肉―の調和のとれた活動は、
人間全体の生命体が十分に健全に発達するために必要である。……

食欲と情欲は支配されなければならない。それらを通して、わたしたちは
人間という神の宮を弱めたり、汚したりすることのないためである。

身体能力を減じるものは何であっても思いを弱め、善と悪、正しいことと悪
いことを区別するための明晰さを減じる。この原則はナダブとアビウの例で実
証されている。神は彼らに最も聖なる働きを与え、彼らが定められた奉仕の中

でご自身に近づくことを許しておられた。しかし、彼らは酒を飲む習慣があり、混乱した思いをもって聖所における聖なる奉仕に入ったのである。

神ご自身が灯された聖なる火があった。しかし彼らは神の民の祈りと共に芳しい香りとして上る香を捧げるときに、自分たちの香炉に異火を用いた。彼らの思いが汚れた放縦によって曇っていたために彼らは神聖な要求を無視した。「主の前から火が出て彼らを焼き滅ぼし」た。……

道徳的に汚れない—神が内にご臨在する住まいにふさわしい—ものになると同様に、力を尽くして自分の体をキリストに、清められた宮、すなわち身体的に完全なものとして捧げることが、各生徒、各個人の義務である。(クリスチャン教育の基礎 426 ～ 428)

5月16日

道徳の原則は、魂の防壁である

「不品行を避けなさい。人の犯すすべての罪は、からだの外にある。しかし不品行をする者は、自分のからだに対して罪を犯すのである。」(コリント第一 6:18)

わたしは自分たちが終わりの時代の危険のただ中に生存していることを示されてきた。なぜなら、悪がはびこり、多くの人の愛が冷えているからである。「多くの」という言葉はキリストに従うと公言している人々を言及している。彼らは蔓延している悪に影響され、神から背信しているが、このように影響を受ける必要はないのである。この墮落の原因は、彼らがこの悪から離れて立たないからである。悪がはびこるために、彼らの神への愛が冷えるという事実は、彼らが何らかの意味において、この悪にあずかっていることを示している。さもないければ、神を愛する彼らの愛とこのお方のみ事業への熱情と熱意に影響を与えるはずがないのである。

この世の状態の恐るべき情景がわたしの前に示されてきた。不道徳が至る所に蔓延している。わいせつはこの時代の特別な罪である。悪がその醜い頭を今ほど大胆にもたげたことはかつてなかった。民は麻痺しているかのようである。徳とまことの善を愛する人々は、その大胆さと強力さと普及に失望するばかりである。蔓延している悪は不信者や嘲笑者に限られたことではない。そうであれば良いのだが、そうではないのである。……

すべてのクリスチャンは、自分の情欲を抑制し、原則によって支配されることを学ばなければならない。

体組織全体に伝達する脳神経は、天が人に伝達し、人のうちなる命に影響を及ぼすことのできる唯一の媒体である。神経系における電流の循環を妨げるものは何であつても、活力の強さを減じ、その結果は思いの知覚力を失わ

せることになる。(教会への証 2 巻 346, 347)

道徳的原則は、厳密に実行されると、魂の唯一の防壁となる。もし食事が最も単純な種類のものになるべき時があるとすれば、それは今である。……食事が熱する性質のもでなければならないほど、情欲は支配され易くなるのである。嗜好の満足は、身体的、知的、道徳的健康と無関係に考慮されるべきではない。……

神はあなたが大事にし、またご自分の奉仕と栄光のために最上の状態で保つべき住まいをお与えになった。あなたがたの体は、あなた自身のものではない。「あなたがたは知らないのか。自分のからだは、神から受けて自分の内に宿っている聖霊の宮であって、あなたがたは、もはや自分自身のものではないのである。あなたがたは、代価を払って買いとられたのだ。それだから、神の所有である自分のからだを霊をもって、神の栄光をあらわしなさい」。「あなたがたは神の宮であって、神の御霊が自分のうちに宿っていることを知らないのか」。(同上 352, 353)

5月17日

身体的な悪習慣は 頭脳に影響を及ぼす

「だから、飲むにも食べるにも、また何事をするにも、すべて神の栄光のためにすべきである。」(コリント第一 10:31)

食べ物の質とわたしたちの食べる方法は、健康に強力な影響力を発揮する。多くの人々は、……一度も食欲を制するために、あるいは食することに関して適切な規則を守るために断固とした努力を払ったことがない。ある人は食事の時に食べすぎるし、ある人は誘惑されるといつでも食間に食べる。

食習慣における注意の必要がすべての人の思いに印象づけられるべきである。……わたしは健康を害するこれらのものを食することを拒否するように、すべての人に訴える。こうして彼らは犠牲によって主に仕えることができる。

健康の法則に従う人々は、体の必要と消化の法則に時間と注意を払うのである。そして彼らは思考の明晰さと精神力の強さによって報いられることになる。一方、胃を乱用することによって自分のクリスチャン経験を損なうことも可能である。消化を乱すものには、心の繊細な感情を無感覚にする感化力がある。……健康を損なう習慣はみな精神に作用を及ぼす。健全な身体と精神の健康を確立し、維持するために向けられた時間は有意義な時間である。堅固で落ち着いた神経と健康的な循環は、人が正しい原則に従い、良心の促しに耳を傾ける助けとなる。……

頭脳は存在の砦である。身体的な悪習慣は頭脳に影響を及ぼし、良い精神的な訓練……の達成を妨げる。青年が精神と同様に、どのように体を取り扱うべきかという科学において教えられない限り、成功する生徒にはなれない。勉強は精神力の衰弱の主な原因ではない。主たる原因は、不適切な食物、不規則な食事、身体運動の欠乏、また健康の法則の他の面に関する不注意

である。わたしたちが健康を守るためにできるすべてのことをなしたとき、神にわたしたちの努力を祝福して下さるようにと信仰のうちに求めることができる。

.....

青年は、自分の命を好きなように扱う自由はないことを教えられるべきである。神はご自分の尊い賜物を軽率に扱う人々を罪なしとされることはない。人は強さ、タラント、資金あるいは機会を与えられれば与えられるほど、神の働きのより重い責任を負うべきであり、このお方のためにより多くなすべきである。命は聖なる信任であることを信じるよう訓練をされている青年は、放縦と犯罪の渦に飛び込むことをためらう。この時代の非常に多くの有望な青年たちがここで飲み込まれるのである。(両親と教師への勧告 297～300)

精神的また道徳的力は、身体的な健康にかかっている。(思い、品性そして個性 1 巻 61)

5月18日

命は聖なる委託物である

「いのちの泉はあなたのもとにあり、われらはあなたの光によって光を見る。」

(詩篇 36:9)

わたしたちは働き人として、わたしたちの信仰の創始者であり完成者であられるイエスを見続けている必要がある。神とともに働く共労者として、わたしたちは魂をキリストへ引き寄せなければならない。わたしたちは各自、主人の奉仕において果たすべき特別な役割があることを覚えているべきである。ああ、教会員が自分たちと接触する人々にあがない主を指し示す責任が自分たちに負わされていることを自覚するならば、どれほどの多くの善が成し遂げられることであろう。

教会員が私心なく神から与えられた働きに携わるとき、死にかかっている魂のために、はるかにもっと強力な感化力が発揮され、医事伝道の分野ではるかにもっと熱心な努力が払われるようになる。すべての教会員が忠実に自分の役割を果たすとき、伝道地の働き人は助けられ、励まされ、神のみ事業が力強く前進するのである。……

あなたが自分の庭を耕す時間をとり、こうして体組織が良く働く状態に保つのに必要な運動をするとき、あなたは集会を開くのとまったく同じように神のみ働きをしているのである。神はわたしたちの父であられ、わたしたちを愛しておられる。このお方はご自分の僕が自分の体を乱用することを求めてはおられない。

不健康と労働における無能のもう一つの原因は消化不良である。消化力が乱用されると、頭脳が最上の働きをなすことは不可能である。多くの人はさまざまな種類の食べ物を急いで食べる。これにより胃の中で戦争が生じ、脳が混乱する。有害な食物の使用、それ自体は健康的であっても食べ過ぎること

は一様に避けるべきである。多くの人々は健康の法則にかかわらず、いつでも食べている。そうすると陰鬱が思いを覆う。人が自分の習慣においてあまりにも向こう見ずで、これらの事柄に関して神が与えてくださった光にあまりにも無頓着であれば、いかにして神聖な啓発をもって尊ばれることができるであろう。

.....

命は聖なる信任であり、わたしたちが保ち、またこのお方の栄光のために用いることができるようにすることがおできになるのは、ただ神だけである。しかし、体のすばらしい構造を形成されたお方は、人がご自分に相反して働かなければ、それが正しく働き続けるように特別に世話をしてくださる。わたしたちに委ねてくださったすべてのタラントをわたしたちが向上させ、与え主のみ旨にしたがって用いるのを助けてくださる。わたしたちが自分個人の救いの達成のために機会と利点を生かすことができるように、そして私心のない生活によってほかの人々の幸福を促進できるように、日々、月々、年々とわたしたちの生涯に時間が重ねられていく。こうして、わたしたちはキリストの王国を築き、神の栄光を表すことができるのである。(ビュー・アンド・ヘラルド 1912年6月20日)

5月19日

真の宗教は健康を促進する

「〔知恵〕の道は楽しい道であり、その道筋はみな平安である。」(箴言 3:17)

この世界はすべてが悲しみと悲惨ではない。「神は愛である」(ヨハネ第一 4:16)という言葉が、すべての開くつぼみに、すべての花びらに、すべての草の上に書かれている。罪ののろいが、地にとげやあざみを生えさせたけれども、あざみには花が咲き、とげはばらの花でおおわれている。自然界のものは、みな、父親のように思いやりのある神の保護と、子供たちの幸福を願う神の心を証拠立てている。神の禁止や命令は、ただ神の権威を誇示するだけのものではない。神は、神の子供たちの幸福を考えて万事を行なわれる。神は、彼らが所有することが最も幸福であるものを、何一つ捨てることをお命じにならない。

社会の一部の人々は、宗教が健康または、この世の幸福を増進するものではないと考えているが、これは、はなはだしいまちがいの一つである。聖書には次のように書いてある。「主を恐れることは人を命に至らせ、常に飽き足りて、災にあうことはない」(箴言 19:23)。「さいわいを見ようとして、いのちを慕い、ながらえることを好む人はだれか。あなたの舌をおさえて悪を言わず、あなたのくちびるをおさえて偽りを言わずな。悪を離れて善をおこない、やわらぎを求めて、これを努めよ」(詩篇 34:12～14)。「それは、これを得る者の命であり、またその全身を健やかにするからである」と知者は言っている(箴言 4:22)。

真の宗教は、体的、知的、道徳的に、人間を神の律法に調和させる。それは、自制と落ち着きと節制とを教える。宗教は、精神を高尚にし、趣味を洗練し、判断を清める。それは、人間を天の清らかさを持った者とする。神の愛と摂理の支配を信じる信仰は、心配や苦労の重荷を軽くする。それは、人間がど

んなに高められようが、どんなに低い境遇におかれようが、心を喜びと満足で満たす。宗教は、直接健康の増進と長寿に寄与し、人生のすべての祝福の楽しみを増す。それは、人の心に尽きることのない幸福の泉を開く。それは、人々が求めているものよりもはるかにすぐれたものを、キリストは与えようとしておられることを、キリストを受け入れていないすべての者が悟ることを望むのである。……

精神と肉体は、非常に密接な関係がある。であるから、道徳的、また、知的に高い標準に達しようと思うならば、われわれの身体をつかさどる法則に注意しなければならない。強力で均衡のとれた品性を得ようとするれば、知的、体的能力の両方を運動させて、発達させなければならない。青年が、神から与えられたこの驚くべき身体について研究し、からだを健康に保つための法則を研究すること以上に重要な研究がほかにあるか。(人類のあけぼの下巻 261, 262)

5月20日

神の驚くべきみわざの価値を 重んじるべき

「わたしはあなたをほめたたえます。わたしは恐るべく、くすしく造られています。あなたのみわざはくすしく、あなたは最もよくわたしの魂を知っておられます。」

(詩篇 139:14 英語訳)

神がわたしたちにお与えになったすべての力は、神への最も賢明で最も高い奉仕に用いられるべきである。主が民を世から導き出されたのは、彼らを純潔で聖なる天にふさわしいものとするためばかりでなく、彼らにお与えになる知恵を通して、神の日に立ち得る民を準備することにおいて彼らを神と共に働く共労者とならせるためであった。

健康改革の上に大いなる光が与えられてきた。しかし、すべての人がこの主題を正直に扱い、知恵をもってそれを支持することが重要不可欠である。わたしたちの経験において、自分たちの見解を受け入れるように望んでいる人々に対して、最上の印象を残すような方法で健康改革を提示してこなかった多くの人々を見てきた。聖書は賢明な勧告で満ちており、飲食さえ適切な注意を払われている。人が享受できる最高の特権は、神性にあずかることであり、わたしたちを神への強力な関係に結びつける信仰は、わたしたちがキリストと一つになるように思いとふるまいを形成し、かたち作るのである。だれも不節制な食欲を通して、自分の好みにふけるあまり、人間という機械の繊細な働きの何かでも弱め、こうして精神や体を損なうべきではない。人は主に買われた所有である。

もしわたしたちが神性にあずかるものであれば、わたしたちは自分の創造主との交わりのうちに生き、ダビデが次のように叫ぶにいたった神のみわざのすべての価値を重んじるのである。「わたしは恐るべく、くすしく造られています」。

わたしたちは体の器官を、あたかも自分が創造したかのように、自分自身の所有だとみなすことはしない。神が人の体に与えてくださったあらゆる機能を感謝すべきである。……「あなたがたは、代価を払って買いとられたのだ。それだから、自分のからだをもって、神の栄光をあらわしなさい」（コリント第一 6:20）。

わたしたちは思い、魂、あるいは体の一つの機能でも愚かに扱ってはならない。わたしたちが人の体の繊細な器官を乱用するならば、必ず自然の法則の違反のゆえに刑罰を払わずにはいない。実生活に持ち込まれた聖書の宗教は、知性の最高の教養を保証する。

節制は神のみ言葉の中で高い水準に高められている。このお方のみ言葉に従うとき、わたしたちは高く、なおも高く上ることができる。不節制の危険が明確に述べられている。節制によって得られる利点が、聖書を通じて、わたしたちの前に開かれている。神のみ声はわたしたちに「それだから、あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい」と語りかけている（マタイ 5:48）。……

賢明に扱われる健康改革は、入るためのくさびとなることがわかる。その後、真理がその後に著しい成功をもって続くのである。（レ・ユー・ア・ント・ヘラルド 1959 年 6 月 25 日）

5月21日

考えるための力となすべきための力

「あなたは神と和らいで、平安を得るがよい。そうすれば幸福があなたに来るでしょう。」(ヨブ 22:21)

愛の律法は、心と魂と肉体を、神と人類同胞への奉仕にささげるように要求している。この奉仕によって、われわれは、他人への祝福となり、同時にまた、われわれ自身の上にも、最も大きな祝福をもたらすのである。無我の精神は、すべての真の発達の基礎である。無我の奉仕を通して、あらゆる才能が最大限に啓発されて、われわれはますます深く神のご性質にあずかる者となる。われわれは心に天国をうけ入れるので、天国にふさわしい者となるのである。

神はあらゆる真の知識の根源であられるので、……教育の第一の目的は、われわれの心を神ご自身の啓示に向けることでなければならない。アダムとエバは、神との直接の交わりを通して知識をうけ、神のみわぎを通して、神について学んだ。すべての被造物は、最初完全であったときには、神の思想の表現であった。アダムとエバにとって、自然界は神の知恵に満ちていた。しかし人が罪を犯したために、神との直接の交わりによって学ぶことが許されなくなったばかりでなく、また神のみわぎを通して学ぶことも大部分できなくなってしまった。

地は、罪のために傷つけられ汚されたために、創造主の栄光をかすかにしか反映できない。しかし、神の実物教訓が地上から消し去られていないことは事実である。神の創造のみわぎという大きな書巻の各ページには、今もなお神の筆跡がみとめられる。自然は今もなお、その創造主を物語っている。しかし自然界の啓示は、部分的であり、不完全である。しかも墮落した状態にある人間の弱い能力と限られた視力では、自然を正しく解釈することはできない。われわれは、神が聖書の中に示されたご自身に関するいっそう深い啓

示が必要である。

聖書は真理の完全な標準であって、これに教育上最高の位置があたえられなければならない。……神のみかたちにかたどってつくられた人間のひとりびとりに、創造主の能力に近い能力—個性、すなわち、思考し行動する能力がさづけられている。この能力が発達してはじめて、人は、責任を負う者となり、事業の指導者となり、他人に感化を及ぼす者となる。……

生徒の研究を閉じこめないで、彼らを真理の泉、すなわち自然と聖書の中に開かれている広い研究の分野に導かなければならない。人間の本分と運命について、重大な事実を熟考するときに、彼らの心は強くそして大きくなる。……それは罪惡に抵抗する心を強める。欲望に身をまかせてこれに滅ぼされることなく、あらゆる動機と願望を正義の大原則に一致させる。神のご品性の完全さを心に思い続けるとき、精神は新しくなり、魂は神のみかたちに再創造される。……

神がその子らにお望みになる理想は、人間の考えのおよばないほど高いものである。神のようになること、すなわち神のみかたちに似ることが、到達しなければならないゴールである。(教育 5 ～ 8)

5月22日

わたしたちは永遠の知恵を受ける

「知恵ある者に教訓を授けよ、彼はますます知恵を得る。正しい者を教えよ、彼は学に進む。」(箴言 9:9)

わたしたちが、聖霊のささやきに耳を傾けて従うならば、わたしたちの心は拡大され、ますます神の力を受け、さらに、よい働きをすることができるのである。眠っていた精力は呼びさまされ、まひしていた機能も新しい生命を受けるのである。

神の召しに従順に応じるならば、どのような卑しい働き人にも、必ず神からの援助が約束されている。このように大きなきよい責任を受け入れること自身が品性を高める。それは、知的、霊的能力を最高に活動させることを要求し、心と思いを清めるのである。神の力を信じることによって、弱いものがどんなに強くなって不屈の努力を続け、大きな成果を生むようになるかは、驚くばかりである。

たとえ、知識はわずかしかなくても、その少しの知識をへりくだった気持ちで人びとに伝えるものは、全天の宝庫が彼の要求に応じて開かれることを知るであろう。光を伝えたいと望めば望むほど、さらに光が与えられるのである。魂を愛して神のことばを人に説明しようとすればするほど、ますますみ言葉の意味が明らかに示される。知識を用い、能力を活用すればするほど、さらに多くの知識と能力とを持つようになるのである。

キリストのための努力は、すべて祝福となってわたしたちにもどってくる。神の栄光のために財産を用いるならば、もっと多くが与えられるのである。人びとをキリストに導こうとして、彼らのために祈りをささげるときに、わたしたち自身の心が神の恵みの生きた感化によって脈打つのである。わたしたち自身の愛の心が、神からの熱を受けて、もっと燃えるようになり、わたしたちのクリスチ

ヤン生活はもっと現実で、もっと熱心で、祈りに満ちたものとなることであろう。

天では、人の価値は、人間が持っている神を知る能力によって評価される。この知識こそ、すべての能力が流れ出る泉である。神は人間のすべての能力が、神のみこころにかなった能力になるように創造された。神は常に人間の心を神の心と交わせようとしておられる。神は、キリストと協力して神の恵みを世界にあらわす特権をわたしたちにお与えになる。これは、わたしたちがますます多くの天の知識を受けるためである。

イエスをながめることによって、いつそう明らかに神を見ることができるようになり、わたしたちは、ながめることによって変えられる。同胞に善を行ない、彼ら愛することは、わたしたちにとっては自然に行なう本能となる。そして、神の品性と全く同じ品性を自分たちの中に形成する。こうして、神のかたちにまで成長することによって、神を知る能力もますます増加する。わたしたちは、ますます、天上の世界との交わりを深め、永遠の知識と知恵の富を受ける力を絶えず強めるのである。(キリストの実物教訓 330, 331)

5月23日

クリスチャンの卓越さの真の標準

「むしろ、あなたがたを召して下さった聖なるかたにならって、あなたがた自身も、あらゆる行いにおいて聖なる者となりなさい。聖書に、『わたしが聖なる者であるから、あなたがたも聖なる者になるべきである』と書いてあるからである。」(ペテロ第一 1:15, 16)

神のご計画は、向上がご自分のすべての民の生涯の働きとなることであり、また彼らのすべての目的において、クリスチャンの原則によって導かれ、支配され、また経験が正されることである。しかし、多くの人々は人生の真の目的を理解するのに失敗している。そして心に抱いている過ちの感化の下で、彼らは本当に価値のある、命のあるものをことごとく犠牲にしている。真の人物とは、自分自身の利益を他の人の善のために喜んで犠牲にし、自分を忘れて他の人の幸福のために奉仕する人である。

知性は富や体力よりも強力である。もし聖化され神の御霊に支配されているならば、それは善のために力強い感化力を発揮することができる。しかし、知性だけで人を神聖な標準にしたがって造ることはない。悪に仕えるものとされるとき、偉大な知性はその所有者にとっても、その感化のうちに来るすべての人にとってもものろいである。

人が真の人間性を主張するとき、それは神から与えられた力の用い方によって判断されなくてはならない。パイロン卿は類まれな知性の賜物を持っていた。しかし、彼は神の標準によれば、人ではなかった。……この男は世の傑出した人の一人であった。しかしなお、主は彼をただ神に与えられたタラントを乱用した者としてしかお認めにならない。神が優れた知能をお授けになり、世が偉人だと呼ぶ他の多くの人々は、サタンの旗印の下へ再結集し、神の賜物を真理の逸脱と人の魂の滅びのために用いたのである。……

このような人々の生涯と対照的なのが、マルチン・ルターの生涯である。彼は貴族の生まれではなかった。彼は王冠をかぶらなかった。俗世間から離れた独房より、彼の声は聞かれ、彼の感化力が感じられた。彼には、活力に満ちた知性と同様に、高貴で寛容な心があった。そして彼のすべての力は人類の善のために働いた。彼は真理と正しいことのために雄々しく立ち、自分の同胞仲間を益するために世の反対に大胆に立ち向かった。

人類を祝福することこそ、霊的な生涯である。もし人が神との調和のうちにいるならば、彼は絶えず力を求めて神により頼むのである。「それだから、あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい」。絶えずクリスチャン品性の完全へ向かって押し進み、地上で始められた努力は永遠にわたって続くことを覚えて、いつも神のみ旨に調和しようと奮闘することがわたしたちの生涯の働きとなるべきである。

神は人類家族の前に高められた標準をすえてこられた。そして自分に与えられた人間性に対して真実である人は、この世の生涯において自分の同胞の幸福を促進するだけでなく、来るべき生涯において永遠の報いを得る助けとなるのである。(サイン・オブ・タイムズ 1886 年 6 月 17 日)

5月24日

神のご目的を成就する知恵

「主を恐れることは知恵のもとである、聖なる者を知ること、悟りである。」(箴言 9:10)

人間が持っている心と魂とからだの種々の能力は、すべて神から授かったものであるから、それらを活用して最高にすぐれたものにしなければならない。しかし、これは、利己的で排他的修練ではない。なぜなら、われわれが、似ようとしている神の品性は、慈悲と愛に富んだものだからである。創造主が、われわれにお授けになったすべての能力とすべての性質は、神の栄光と同胞の向上のために用いなければならない。そして、このように活用することが、最も清く、最も気高く、最も幸福な活動である。

この原則の重要性を認めて、それに忠実に従うならば、現代の教育法のどこかに根本的变化が起こることであろう。教師は、誇りと利己的野心に訴えて、競争心をかき立てようとせずに、善と真理と美を愛する心を起こさせ、美德を望む心を起こさせようと努力するであろう。学生は、他を越えるためではなくて、創造主のみこころを実現し、神のかたちを受けるために、自分に与えられた神の賜物を伸ばそうとするであろう。単に、地上の標準をめざしたり、それ自身萎縮作用をもっている自己高揚の欲望に動かされたりするかわりに、心は創造主に向けられて、彼を知り、彼のようになろうとするであろう。……

人生の大事業は品性の建設であって、神を知んことはすべての真の教育の基礎である。……神の律法は、神の品性の写しである。だから、詩篇記者は言っている。「あなたのすべての戒めは正しい」「わたしはあなたのさとしによって知恵を得ました」(詩篇 119:172, 104)。神は、神のみ言葉と創造のわざの中に、ご自身を現わされた。靈感によって書かれた書物と自然の書物とによって、われわれは神の知識を得なければならない。

人間の心は、考えるように訓練された問題に、次第に順応してくるものである。ただありふれたつまらぬことだけを考えていると、心は、萎縮して衰弱する。困難な問題と取り組むことが全然なければ、しばらくするうちに、成長する力をほとんど失ってしまう。教育する力として、聖書に匹敵するものはない。心は、神のことばの中に最も深遠な思想と最も崇高な熱望の主題を見いだす。聖書は、人間が所有する最も教訓の豊かな歴史である。それは、永遠の真理の根源から直接与えられたものである。そして、神のみ手が各時代を通じて、その純粹性を保持してきた。(人類のあけぼの下巻 258, 259)

5月25日

明るくされて満ちみちた輝きに至る

「わたしたちは主を知ろう、せつに主を知ること求めよう。主はあしたの光のように必ず現れいで、」(ホセア 6:3)

わたしたちは終わりの時代の危険のただ中に生きており、わたしたちは自らをすべての汚れから清め、キリストの義の衣を着なければならない。神のみ働きは着実に前進すべきである。わたしたちは自らを、すなわち体、魂、霊をキリストに従わせなければならない。そうしないかぎり、体も魂も健康が危険にさらされる。

神はご自分の働き人たちがどのように論理的に原因から結果を考え、賢明で安全な結論に達するかを理解を日ごとに得るように望んでおられる。このお方は彼らが記憶力を増し加えるように望んでおられる。わたしたちは間違いを犯すわけにはいかない。幼子のように、キリストの足元に座って、このお方からどのように働きに成功できるかを学ばなければならない。わたしたちは健全な判断、他の人々に与えるための光を神に求めるべきである。経験の実である知識が必要である。わたしたちはこの世のことでも霊的なことでも知識を増し加えることなく一日が過ぎてしまうことがあってはならない。わたしたちは上りたいと願っている高さに、より近く進んでいくために杭を打ち、またそれを取り上げて、さらに先へと打っていくべきである。

最高の教育は日に日に前進するために思いを訓練することに見出されるのである。一日の終わりにわたしたちは勝利者の報いに近づく進軍を認めるべきである。日に日にわたしたちの理解力は円熟すべきである。日に日に、わたしたちは現世と来世における豊かな報いをもたらす結論を出すべきである。日ごとに、自分たち自身が何をなしたかを眺める代わりにイエスを眺めるとき、わたしたちは現世のことにも霊的なことにもはっきりと前進するのである。

万物の終わりが近づいている。わたしたちがなしたことが、わたしたちの働きに終止符を打つことを許してはならない。わたしたちの救いの将は次のように仰せになる、「前進せよ。夜が来る、するとだれも働けなくなる」。絶えず、わたしたちは有用性を増し加えるべきである。わたしたちの生涯はいつもキリストの力の下にあるべきである。わたしたちのともし火は明るく輝き続けているべきである。

祈りは成功のために天が定めた手段である。人と人の間の訴え、嘆願、哀願は、人を動かし、国家問題を支配する中で役割を果たす。しかし、祈りは天を動かす。祈りに答えてもたらされる力だけが、人を天の知恵に賢くし、彼らが互いに平和の絆で結ばれて、御霊と一致して働くことができるようにする。祈り、信仰、神への信頼は、人間の結論をその本当の価値—無価値—に定める神聖な力をもたらす。……

自らを神に啓発していただく場所へ置く人は、ちょうど朝焼けの部分的な暗がりから真昼の完全な輝きにまで至るように、前進するのである。(オーストラリア連合総会記録 1904 年 11 月 1 日)

5月26日

人生の真の喜びをたのしむ

「わが魂よ、……神を待ち望め。わたしはなおわが助け、わが神なる主をほめたたえるであろう。」(詩篇 42:11)

賢者は知恵の「道は楽しい道であり、その道筋はみな平安である」と述べている。多くの人々は神への献身が、健康と人生の社会関係における快活な幸福に弊害をもたらすという印象を持っている。しかし、知恵と聖潔の道を歩む人々は、「今のいのちと後の世のいのちとが約束されてあるので、万事に益となる」ことを見出す。彼らは人生の真の喜びを楽しんで生きている。その一方、世の人々が何か興奮する娯楽によって気晴らしをしていないときによくするように、誤って過ごした時間をむなく後悔したり、思いの憂鬱や恐怖を感じて悩むことがない。

病的な想像力を持ち、正しく聖書の宗教をあらわしていない自称クリスチャンが多くいるのは事実である。彼らはいつも雲の下を歩んでいる。彼らはあたかも精神の憂鬱や試練や厳しい戦いについてつぶやくことが徳であると思っているかのようである。この一連の行動は、救い主の次の言葉と調和していない。「あなたがたの光を人々の前に輝かし、そして、人々があなたがたのよいおこないを見て、天にいますあなたがたの父をあがめるようにしなさい」。憂鬱と闇よりも光を反射することができるように、光のうちを歩み、習慣的な思いの快活さを培うことは、すべての人の義務である。

信心は健康の法則と矛盾せず、かえってそれと調和している。人間が十戒の律法に従順であったならば、彼らが自分たちの生活の中でこれらの規則の原則を実行していたならば、いま世にあふれている病気ののろいはなかったのである。人は、気分が落ち込まないようにするためには、軽い娯楽が必要だと教えるかもしれない。思いはたしかにひと時そのように気がまぎれることで

あろう。しかし、興奮が冷めると、静かな反省の時が訪れる。良心が目覚め、その声が次のように言うのが聞こえるのである、「これは健康や真の幸福を得る方法ではない」。

思いを興奮させるが後に落ち込みが続く娯楽がたくさんある。他の種類のレクリエーションは、罪がなく健康的である。しかし、身体運動を提供する有益な労働こそ、しばしば思いにより有益な感化力を持っており、また同時にそれは筋肉を強め、循環をよくし、健康を回復するのに強力な手段であることがわかるのである。

「さいわいを見ようとして、いのちを慕い、ながらえることを好む人はだれか。……正しい者が助けを叫び求めるとき、主は聞いて、彼らをそのすべての悩みから助け出される」。(サインズ・オブ・タイムズ 1884 年 10 月 23)

5月27日

健康への大路

「主の目は正しい人をかえりみ、その耳は彼らの叫びに傾く。」(詩篇 34:15)

善を行うという自覚こそ、病気の体と精神にとって最善の薬である。受ける人に宿る神の特別な祝福は、健康と力である。思いが神にあつて落ち着き満足している人は、健康への大路にいる。主の目がわたしたちの上にあり、このお方の耳がわたしたちの祈りに開かれているという自覚を持つことは実に満足である。わたしたちには決して失望させない友がおられ、魂の秘密をみな打ち明けることができると知ることは、言葉では決して言い表せない幸せである。道徳的機能が病気によって曇らされている人は、クリスチャン人生や聖潔の美しさを正しく表している人ではない。彼らはあまりにもしばしば狂信の火の中にいるか、冷たい無関心や無反応の憂鬱という水の中にいるかである。

思いが快活な主題を考えるように律することが宗教的な義務だと感じない人々は、たいてい両極端のうちの一方にいるのが見出される。彼らは絶え間ない一連の興奮的な娯楽によって気分が上がり、軽率な会話にふけったり、笑ったり、冗談を言ったりしているか、もしくは大変な試練や精神的な葛藤があり、それを経験した人も理解してくれる人もほとんどいないと考えて、意気消沈しているかのいずれかである。……適切な労働、全力を使う健康的な運動が、彼らの思いを自分自身から引き離す。……

もし彼らが自己と関係のない主題を考えるように訓練されるなら、彼らはなお有益になれる。……

意気消沈は、しばしば有り余る余暇の結果である。手と思いは有益な労働に従事し、他の人の重荷を軽くすべきである。こうして用いられる人々は、自分自身もまた益するのである。……

思いは自己から引き離れるべきである。その力は他の人をより幸せに、より

益するための手段を考案することに発揮されるべきである。「父なる神のみま
えに清く汚れのない信心とは、困っている孤児や、やもめを見舞い、自らは
世の汚れに染まずに、身を清く保つことにほかならない」(ヤコブ 1:27)。

真の宗教は思いを高尚にし、嗜好を精錬し、判断を聖化し、その所有者
を天の純潔と聖潔にあずかる者とする。それは天使を近づけ、わたしたちをま
すます世の精神と感化力から引き離す。それは人生のすべての行為と関係に
入り、わたしたちに「慎み(健全な思い)……の霊」を与える。そしてその結
果は幸福と平安なのである。(サイズ・オブ・タイムズ 1884 年 10 月 23 日)

5月28日

聖書研究によって得られる 精神的な教養

「へやは知識によって、さまざまの尊く、麗しい宝で満たされる。」(箴言 24:4)

肉体はもちろん心も魂も、活動によって力を得られるのが神の法則である。発達させるのは運動である。この法則と一致して、神は知性と霊性の発達の方法を聖書の中にお与えになっている。

聖書の中には、人が現世のためにあるいは来世のためにふさわしい者となるために理解しなければならないあらゆる原則が含まれている。しかもそれらの原則は、どんな人にも理解できるのである。聖書の教えを理解しようとする心がけさえあれば、その一節を読むだけで必ず何か有益な思想を得ることができる。しかし時々思い出したように断片的に聖書を研究したのでは、その最もとうい教えを得ることは不可能である。聖書を急いで不注意に読む人は、そこに提示されている大きな真理の体系を認めることができない。……われわれは大きな全体を構成しているところの数々の真理を、「ここにも少し、そこにも少し」さがし出して集めなければならない。

このようにさぐり出され、集められた真理は、互いに調和していることがわかる。四福音書はおのおの互いに補足し合い、一つの預言は他の預言の説明であり、一つの真理は他の真理の発展である。ユダヤの制度の型は、福音によって明らかにされている。神のみ言葉の中にあるすべての原則はそれぞれに立場を持ち、すべての事実はそれぞれの意義をもっている。こうして全体の構成は、計画においても実行においても、その創始者である神について証言している。このような構成は、ただ限らない神の知恵だけが考え出すことも作り出すこともできるのである。

いろいろな部分をさがし出してその関係を研究するときに、人の頭脳の最高の能力は盛んに活動する。このような研究に従事するときに知力は必ず発達するのである。

聖書研究の知的な価値は、真理をさがし出してこれを集めることだけにあるのではない。それは提示されたテーマを把握するのに必要な努力の中にもある。日常の平凡事にばかり心を奪われていると、心はいじけ、衰弱する。崇高かつ遠大な真理を理解するために心を働かせなければ、それはついには発達の能力を失ってしまうであろう。心の退化を防ぎ、その発達を促すには、神のみ言葉の研究にまさるものはない。知的な訓練の方法として、聖書は他のどんな本よりも、また他のすべての本を合わせたよりも効果がある。……天来の啓示によるすばらしい真理を把握するための努力は他のどんな研究よりも、知的な能力を与えるのである。このようにわれわれの心が限りない神のみこころと接するときに、それは大きくそして強くならざるを得ないのである。(教育 132, 133)

5月29日

継続的な前進を目指す

「油断することなく、あなたの心を守れ、命の泉は、これから流れ出るからである。」(箴言 4:23)

真に熱心な人はこの世にまれであるが、非常に必要とされている。精力的な人の模範は遠くにまで及ぶ。彼には他の人に及ぼす電力がある。彼は自分の働きにおいて障害に遭うが、彼のうちには押し進む力があり、自分の道がふさがれてしまうのを許す代わりに、すべての障壁を打ち壊すのである。……

すべての道にいはらがある。主の導きに従う人はみな失望、十字架、損失に遭うことを予期しなければならない。しかし、真の英雄的な勇氣は、彼らがこれらに打ち勝つのを助ける。多くの人は困難に見えることを大いに拡大し、それから自己憐憫によって、ついに失望してしまう。そのような人は自らのうちに完全な変化をもたらす必要がある。彼らは非常な努力を払い、すべての子供じみた感情を克服するよう自らを律する必要がある。彼らはつまらないことを扱うのに生涯を費やしてしまうことはしないと決心すべきである。何かを成し遂げるよう決心し、それを成しなさい。

多くの人は良い決心をして、いつも何かをしようとしているが、決してそれに取りかからないのである。彼らの決心はほとんど言葉である。多くの場合、もし彼らにもっと精力があり、障害にもかかわらず何かを成し遂げていたなら、彼らははるかにもっと健康だったのである。

すべての人は人生において、一つの目的、目標を持っているべきである。思いの腰に帯をしめ、思考は磁石が南北を指すように要点に留まるよう訓練されるべきである。思いは的確な計画に従って、正しい水路に向けられているべきである。そのとき、一步一步が前進の一步となる。あいまいな考えや場当たり的な計画に従うことによって時間を無駄にしてはならない。価値ある目的が

絶えず視野に保たれ、すべての思考や行為がそれらを成し遂げる性格のものであるべきである。まだ取りかかれていないことを実行するために、確固とした目的を持ちなさい。

この世の人生における成功か失敗かは、思考がどのように律せられているかその方法に大きくかかっている。もしそれらが神がそうなるようにと導かれるままに支配されるならば、それらはますます献身へと導くような主題について考えるようになる。もし思考が正しければ、言葉も正しいものとなる。……

人生の……午後の太陽は、朝日よりも、やわらかく果実の実りが多くなることもできる。それは西の丘の向こうに落ちるときまで、大きさも明るさも増し続けることができる。……あなたの心と思いを継続的な運動によって若く保ちなさい。……

聖書は知的教養のために世界最上の書物である。その中に提示されている壮大な主題、これらの主題が扱われている尊厳ある単純さ、聖書が天の奥義に注いでいる光は、理解力に強さと活力をもたらす。(レビュー・アンド・ヘラルド 1886 年 4 月 6 日)

5月30日

前に上に進むクリスチャン

「心の深みまで新たにされて、真の義と聖とをそなえた神にかたどって造られた新しき人を着るべきである。」(エペソ 4:23, 24)

悪習慣は克服されなければならない。正しい習慣が形成されなければならない。世が知る最も偉大な教師の訓練の下で、クリスチャンは前に上にと完全に向かって進まなければならない。これが神のご命令であり、だれもわたしはできません、と言うべきではない。その代わりに神はわたしが完全になることを要求しておられる、そしてこのお方はわたしが完全への道に立ちただかるすべてを克服する力を与えてくださる、と言うべきである。このお方はあらゆる知恵、あらゆる力の源であられる。……

クリスチャンは光を担う者となり、自分と接触するすべての人に「見よ、世の罪を取り除く神の小羊」と言うべきである。彼らは敬神の模範となり、言葉に、精神に、行為にキリストを表すべきである。彼らの行動は、救い主の行動のコピーとなるべきである。こうして彼らは世の原則に勝るキリストの原則の優位性を示すのである。彼らはクリスチャンでない人々よりも行動の高地の上で働くべきである。彼らは人生のあらゆる局面に福音の人を高める感化力をもたらすべきである。彼らの純潔と有用性は他の人を照らす源となるべきである。

世は聖化されていない心の傾向に合う標準を打ち立ててきたが、これはキリストを愛する人々の標準ではない。贖い主は彼らを世から選び出し、ご自分の罪のないご生涯を標準として残された。このお方は彼らに言葉や行動のあらゆる安っぽさを超越してほしいと望んでおられる。……「心の腰に帯を締め、身を慎み、イエス・キリストの現れる時に与えられる恵みを、いささかも疑わずに待ち望んでいなさい。……あなたがたを召して下さった聖なるかたにならうと、あなたがた自身も、あらゆる行いにおいて聖なる者となりなさい。聖書に、

『わたしが聖なる者であるから、あなたがたも聖なる者になるべきである』と書いてあるからである。』」

これらの言葉は信じ、実践すべきである。クリスチャンは知恵において、知識において、技能において卓越しているべきである。なぜなら、彼らは神とその力を信じているからである。主は彼らがはしごの最上段に到達し、それによってご自分に栄光を帰することができることを望んでおられる。このお方はすべての人が引き出すことのできる知恵の宝庫を持っておられる。……

真のクリスチャンは聖潔をもたらす経験を得る。真理の光が彼の理解力を明るくする。贖い主への愛の光線が、彼の魂と神の間を隔てていた雲を晴らす。純潔で高められ、聖化された神のみ旨が彼の意志となる。彼の顔は天の光を表す。彼の体は聖霊のためのふさわしい宮である。聖潔が彼の品性を飾る。神は彼と交わることができる。なぜなら、魂と体が天の原則と調和しているからである。(サインズ・オブ・タイムズ 1901 年 1 月 17 日)

5月31日

神の宮

「そして、彼がすべての人のために死んだのは、生きている者がもはや自分のためにではなく、自分のために死んでよみがえったかたのために、生きるためである。」(コリント第二 5:15)

人は高く聖なる目的のために創造された神の作品、このお方の傑作である。そして人間という幕屋のすべての部分に神はご自分の律法を書きつけようと望んでおられる。一つ一つの神経、筋肉、一つ一つの精神的また身体的才能は純潔に保たれるべきである。

神は体が聖霊のための宮となるように計画しておられる。そうであればすべての魂になんという厳粛な責任が負わされていることであろう。もしわたしたちが自分の体を汚すなら、自らを害するばかりでなく、他の多くの人々に害をなすのである。……

キリストは人類に神の道徳的なみかたちが回復するように、男女が世にある欲のために滅びることをまぬかれて神性にあずかる者となるようにと死なれた。わたしたちは自分の存在の力を何一つ利己的な満足のために用いるべきではない。なぜなら、わたしたちのすべての力はこのお方に属しており、このお方の栄光のために用いるべきだからである。……

人なる家、神の建物には、厳密で注意深い守りが要求されている。ダビデと共にわたしたちは「わたしはおそろべくくすしく造られています」と叫ぶことができる。全天と背信した人類が、男女は生ける神の宮であることを見ることができるために、神の作品は保持されなければならない。

神が要求される品性の完全とは、聖霊の住まわれる宮として全存在がふさわしくなることである。主は全存在の奉仕を要求される。このお方は男女が、すべてご自分が可能として下さった存在になることを望んでおられる。人間とい

う機会のある部分だけが使用されるのでは十分ではない。すべての部分が行動しなければならない。さもなければ奉仕は不完全である。……

身体的生命は注意深く教育され、培われ、発達させられなければならない。それは男女を通して神性が満ちみちて表されるためである。神は人がご自分のお与えになった知性を用いることを期待しておられる。このお方は彼らがご自分のためにすべての論理的な思考能力を用いるよう期待しておられる。彼らは良心にその定められている最高の地位を与えなければならない。精神力また体力は、その愛情と共に最高の能力に到達できるように培われるべきである。こうしてキリストが世に表されるためである。……

神はご自分が人にお与えになった器官や機能の何かがなおざりにされたり、乱用されたり、あるいは彼らが持つことのできる健康や能力を奪われたりするのをご覧になって喜ばれるであろうか。そうであれば、信仰という賜物を培いなさい。勇気をもって、魂の宮を損なうすべての習慣に打ち勝ちなさい。わたしたちはまったく神により頼んでいる。そして、わたしたちを取り扱われる神のご目的やまたその取扱いの結果がわからなくても、わたしたちの信仰は信じることによって強められる。信仰は来るべきことを前に上にと指し示し、わたしたちをこのお方のうちにあつて完全なものとする力ができしめる力だけをしっかりとつかむ。(レビュー・アンド・ヘラルド 1900 年 11 月 6 日)

研究 11

三重のメッセージ



第二天使のメッセージ

Part 3

「エジプトにいるが、
エジプトのものではない」

まず第一に、モーセがイスラエルを救出するために遣わされたとき、パロあての彼のメッセージは、「主はこう仰せられる。イスラエルはわたしの子、わたしの長子である。わたしはあなたに言う。わたしの子を去らせて、わたしに仕えさせなさい」でありました（出エジプト記 4:22, 23）。イスラエルのエジプトからの救出の目的は、彼らが主に仕えることができるようにということでしたが、これは彼らがそこではこのお方に仕えていなかったという証拠です。

またわたしたちは、「これは主がその聖なる約束と、そのしもべアブラハムを覚えられたからである。こうして主はその民を導いて喜びつつ出て行かせ、その選ばれた民を導いて歌いつつ出て行かせられた。主はもろもろの国びとの地を彼らに与えられたので、彼らはもろもろの民の勤労の実を自分のものとした。これは彼らが主の定めを守り、そのおきてを行うためである」と記されているのを読みます（詩篇 105:42 ～ 45）。

そしてイスラエルがエジプトの偶像礼拝に加わっていたというもっとも強力な証拠は、彼らがそれを捨てないために譴責を受けていることに見出されます。「主なる神はこう言われる、わたしがイスラエルを選び、ヤコブの家の子孫に誓い、エジプトの地でわたし自身を彼らに知らせ……た日、……わたしは

彼らに言った、あなたがたは、おのおのその目を楽しませる憎むべきものを捨てよ。エジプトの偶像をもって、その身を汚すな。わたしはあなたがたの神、主であると。ところが彼らはわたしにそむき、わたしの言うことを聞こうとしなかった。彼らは、おのおのその目を楽しませた憎むべきものを捨てず、またエジプトの偶像を捨てなかった」(エゼキエル 20:5 ～ 8)。

ですから、エジプトが聖書の中で象徴しているものと、イスラエルがそこにいたときの彼らの実際の状態から、わたしたちは彼らの救出には何がかかわっていたのかを理解することができます。

エジプトという名は、邪悪の同義語であり、イエス・キリストの宗教の反対であり、またそれはソドムと対になっています。主の「二人の証人」について、それは「彼らの死体はソドムや、エジプトにたとえられている大いなる都の大通りにさらされる……」と記されています(出エジプト記 11:8)。

神が自らご自分の民に救出にあたられたのは、単に肉体的なくびきから解放するためではなく、それよりはるかに悪い霊的な闇から救出するためでした。そしてこの闇がなおおびただしい範囲にわたって残っているために、救出の働きはなおも続いているのです。古代イスラエルは、「心の中でエジプトにあこがれて」いました(使徒行伝 7:39)。その全歴史を通じて、彼らがエジプトに対して警告されていたことは、彼らが一時でさえ、そのまばゆい感化力から完全に自由になったことはなかったという証拠です。キリストは人々をあらゆる種類のくびきから解放するために地上に来られ、この目的のために、このお方は自ら最大限の範囲において人間の立場を取られたのでした。ですから、このお方がエジプトにまで下られたことには深い意味があります。「それは、主が預言者によって『エジプトからわが子を呼び出した』と言われたことが、成就するためである」(マタイ 2:15, ホセア 11:1 参照)。キリストがエジプトから呼び出されたのですから、キリストのものである人々もみな、すなわちアブラハムの子孫である人々もみな、同様にエジプトから呼び出されなければなりません。これが福音の働きです。

ですから、わたしたちはまた彼らのエジプトからの救出は、「罪の下に売られている」すべての人々にもたらされる救出と同じであることがわかるのです(ローマ 7:14)。「主はこう言われる、「あなたがたは、ただで売られた。金を出さずにあがなわれる」(イザヤ 52:3)。「あなたがたのよく知っているとおり、あなたがたが先祖伝来の空疎な生活からあがない出されたのは、銀や金のような朽ちる物によったのではなく、きずも、しみもない小羊のようなキリストの尊い血によったのである」(ペテロ第一 1:18, 19)。

「エジプト人は、長いあいだ神の知識を退けてきたにもかかわらず、主はなお悔い改めの機会を彼らにお与えになっていた。ヨセフの時代には、エジプトはイスラエルの避難所であった。神の民に好意が示されたことは、神のみ名の栄えであった。そして、今や、怒ることおそく、あわれみに富む寛容な神は、一つ一つの裁きにその働きをなす時間をお与えになったのであった。エジプト人は、自分たちの拝んでいた対象そのものによって、苦しめられ、主の力の証拠を示された。そして、望む者はみな神に従って刑罰をのがれることができた。王の強情と頑迷が神のことを広く伝える結果になり、多くのエジプト人が神に仕えるようになった。

イスラエル人は、異邦人と結合し、その偶像礼拝をまねる傾向が強かった。そこで、神はヨセフの感化が広くゆきわたり、彼らが独自の民族として存続するのに好都合なエジプトに、彼らが下っていくのを許された。ここで、ヘブル人は、エジプト人の偶像礼拝の墮落とエジプト滞在期間後半の残酷なとりあつかいと圧制の結果、偶像礼拝に嫌悪感をいだき、先祖の神のもとにのがれたいと思うようになるはずであった。」(人類のあけぼの上巻 392)

神のみ名がエジプトに伝えられる

「また彼らの前にひとりをつかわされた。すなわち売られて奴隷となったヨセフである。」「その心のままに君たちを教えさせ、長老たちに知恵を授けさせた。」(詩篇 105:17, 22)。

「エジプトの人々にばかりではなく、この強力な国家とつながりのあるすべての国民に、神ご自身がヨセフを通じて表わされた。神は彼をすべての人々に対して光を担う者となさろうと望まれた。そしてこのお方は世界最大の帝国の王座の次に彼をおき、天来の明かりが遠近至るところに広がるようになさったのであった。彼の知恵と正義によって、また彼の日常生活の純潔と慈愛によって、また国民の利益のための彼の献身によって--- しかもその民は偶像礼拝国家の民であった—ヨセフはキリストの代表者であった。エジプト全体が感謝と讃美をもって顔を向けていた彼らの恩恵者のうちに、異教の人々と、また彼らを通して彼らにつながるすべての国々とは、彼らの創造主と贖い主の愛を眺めたのであった。」(教会への証 6 巻 219, 220)

「ヨセフがパロの宮殿に召された当時のエジプトは、世界で最もすぐれた国家であった。文化に芸術に、学問に、エジプトは比類のない存在であった。最も困難な、そして危険な時期に、ヨセフはこの王国の政務をとり、しかも彼の施政は、王国と人民の信頼を勝ち得た。」(教育 49)

エジプトにおけるイスラエル—分かれた民—

「ヨセフは兄弟たちが主の真の礼拝を忠実に行ない、異教の王宮で誘惑にさらされることがないようにしようと思った。そこで、王から質問された場合、正直に自分たちの職業を明かすように兄弟たちに助言した。ヤコブのむすこたちはその助言に従い、自分たちはこの地に寄留するために来ただけで、永住するつもりはないことを注意深く説明し、必要なときにはこの地を離れることができる余地を残しておいた。」(人類のあけぼの上巻 261)

「ヨセフの庇護と、当時の王の好意のもとに、イスラエルびとは急速に増加していった。しかし彼らは、特殊な民族としての特徴を保って、エジプトびとの習慣や宗教を取り入れなかった。」(人類のあけぼの上巻 274)

世からの分離

「わたしがお願いするのは、彼らを世から取り去ることではなく、彼らを悪しき者から守って下さることです。」(ヨハネ 17:15)

「多くの自称クリスチャンたちは、地面をはい、そのつるが道にある根やごみに巻きついているぶどうの木によってよく例証されている。……あなたのつるは地上のすべてのものから切り離されなければならない。……あなたが墮落した人々とつながっていながら、なお純潔であることはできない。愛情の繊細なつるをイエスの周りに巻きつけ、このお方から養分を受けよう。そして地をはい回るかわりに、神の光線をとらえることができるために顔を義の太陽に向けよう。日ごとにこのお方のみかたちに成長していき、このお方の神性にあずかる者となろう。それはあなたがついには神のパラダイスで完全であることが見出されるためである。……」

生きた信仰による神との結合は永久的なものである。他のすべての結合は消滅しなければならない。……しかしこの結合はわたしたちに何らかの代価を要求する。……そこには結合の働きと同様に、痛みを伴う分離の働きがなくしてはならない。もしわたしたちがキリストとの結合に入りたいのであれば、誇り、利己心、虚栄、世俗—あらゆる形態の罪—は克服されねばならない。多くの者がクリスチャン生涯をこれほど嘆かわしく困難であると思う理由、また彼らがこれほどまでに移り気で、変わりやすい理由は、彼らが自らをこれらの大事にしている偶像から引き離さずにキリストに付着しようとするからである。

わたしたちはこのお方のみ言葉の中に示されている条件、すなわち世からの分離という条件を受け入れるであろうか。……わたしたちの神への献身は、生きた原則となり、生活の中に織り込まれ、自己否定と自己犠牲へ導くものでなければならない。それはわたしたちのすべての思想の基となり、すべての行動の源泉とならなければならない。これが、わたしたちを世に超越させ、その汚染させる感化力から分離させるのである。」(信仰によって私は生きる 221)

世のものではない

「神はご自分の選ばれた民を通して、義人と悪人の間にある、すなわち神の僕たちと偶像礼拝者たちの間に存在している甚大な相違を示すことによって、ご自分のみ名を大いなるものにしようと計画された。」(サインズ・オブ・タイムズ 1881年5月19日)

「この世には二つの王国しかない。それはキリストの王国とサタンの王国である。これらの王国のうちのいずれかにわたしたちは属さなければならない。キリストがご自分の弟子たちのために祈られたすばらしい祈りの中で、このお方は『わたしがお願いするのは、彼らを世から取り去ることではなく、彼らを悪しき者から守って下さることです。わたしが世のものでないように、彼らも世のものではありません。真理によって彼らを聖別して下さい。あなたの御言は真理であります。あなたがわたしを世につかわされたように、わたしも彼らを世につかわしました』と仰せになった。

わたしたちが自ら世からの隠遁者となることは、神のみ旨ではない。しかし、世にいる間もわたしたちは自らを神のために聖別すべきである。わたしたちは世に倣うべきではない。わたしたちは正しい感化力として、その味が残っている塩として世にいななければならない。汚れた、不純で、偶像礼拝の世代の中で、わたしたちは純潔で聖なる者でなければならない。そして、キリストの恵みには、人のうちに神に似たかたちを回復する力があることを示さなければならない。わたしたちは世に対して救う感化力を発揮しなしなければならない。「わたしたちの信仰こそ、世に勝たしめた勝利の力である」。世はハンセン病の病院、墮落の集団となった。世は神を知らないで、神の子らを知らない。わたしたちは世の方法を実行したり、その習慣に従ったりしてはならない。絶えず、わたしたちは原則に甘くなることを拒否しなければならない。」(医療伝道 218)

「世において歩み、働くが、世の者ではない。彼らは自分たちの品性の中でキリストの祈りに応えている。……ヨハネ 17:15。彼らは真理の強力な要塞として立ち、彼らの光は世の道徳的な闇の中に遠くまで輝かななければならない。」(私たちの高い召し 274)

世と世にあるものとを愛してはならない

「サタンが人の魂をおとしめようとして、人生のゲームで打った手は、世の心づかい、富、快楽である。「世と世にあるものとを、愛してはいけない。もし、世を愛する者があれば、父の愛は彼のうちにない。すべて世にあるもの、すなわち、肉の欲、目の欲、持ち物の誇は、父から出たものではなく、世から

出たものである」と警告されている（ヨハネ第一 2:15, 16）。」（キリストの実物教訓 32, 33）

「神は昔のイスラエルに要求なさったと同じように、今のご自分の民にも、風習と習慣と原則において、この世とはっきり分離することを要求なさる。神のことが教えることに忠実に従うなら、この区別は存在し、それはあいまいであることはあり得ない。ヘブル人が異教徒に同化してはならないことを戒めた警告は、現在、不信心な者の精神と風習に、クリスチャンが同調することを禁じている警告と同様に明白なものであった。キリストはわれわれにこう語っておられる。「世と世にあるものとを、愛してはいけない。もし、世を愛する者があれば、父の愛は彼のうちにない」（ヨハネ第一 2:15）。「世を友とするのは、神への敵対であることを、知らないか。おおよそ世の友となろうと思う者は、自らを神の敵とするのである」（ヤコブ 4:4）。キリストに従う者は罪人と分離し、善を行なう機会のあるときだけ彼らと交わるのでなければならない。われわれを神から引き離す感化力を持つ人々との交わりを避けるについては、どんなに断固とした態度を取っても取りすぎることはない。「わたしたちを試みに会わせないで」くださいと祈る一方、できるだけ誘惑を避けなければならない（マタイ 6:13）。」（人類のあけぼの下巻 72）

「世への愛着が若者の思いに優位を占めているというのは、憂慮すべき事実である。彼らは明らかに世と世にあるものとを愛しており、そしてまさにこのゆえに神への愛は彼らの心のうちに見出される余地がないのである。彼らは世と世にあるものの中に自分たちの楽しみを見出し、み父とこのお方のみ霊の恵みは知らない。神は、若者全般の生活の特徴づけている軽薄さと流行、そして中身のない空しい談笑によって辱められている。」（教会への証 1 巻 499）

「世への愛が神から引き離している。……だれ一人として、世がその愛情をかり得ている間は、真理を見分けることはできない。世が彼らと神の間に入り込み、視野を曇らせ、感覚を鈍らせるので、彼らが聖なる事柄を識別するのは不可能である。神はこのような人々に要求しておられる。「罪人どもよ、手をきよめよ。二心の者どもよ、心を清くせよ。苦しめ、悲しめ、泣け。あなたがたの笑いを悲しみに、喜びを憂いに変えよ」。自分たちの手に世の汚れのし

みがついている人々は自らをそのしみから清めることが要求されている。……彼らは二心の者であり、世を愛して神に対する自分たちの義務感をまったく失っている。それでいてなお、キリストに従う者だと公言しているのである。彼らはどっちつかずな者である。彼らは、純潔な真理の原則への服従を通して、自分たちの手をきよめ、心を清めないかぎり、両方の世界とも失うことになる。「『彼におる』と言う者は、彼が歩かれたように、その人自身も歩くべきである。」「わたしたちもこの世にあって彼のように生きているので、さばきの日に確信を持って立つことができる。そのことによって、愛がわたしたちに全うされているのである。」「それらのものによって、尊く、大いなる約束が、わたしたちに与えられている。それは、あなたがたが、世にある欲のために滅びることを免れ、神の性質にあずかる者となるためである」。

真の信心を減ぼすのは、世俗的な欲である。世と世にあるものへの愛はみ父から引き離す。地上の利益に対する情熱は、わたしたちの救い主の間近い来臨を待っていると公言している人々の間で増し加わっている。肉の欲、目の欲、持ち物の誇りは、クリスチャンだと公言している者たちをさえ支配している。彼らは意地汚い欲をもって世のものを求め、そして多くの者は永遠の命を神聖でない利益のために売り渡すのである。」(教会への証 1 巻 531)

わたしたちの子供たちを世から分離させ、区別しておくのはだれか

「天の雲に乗って来られるキリストを迎える準備をするように、あなたにお勧めする。日ごとに、世を愛する心をあなたの心の中から捨てなさい。キリストと交わることが何であるかを経験によって理解しなさい。審判の準備をしなさい。そしてキリストがおいでになって、すべて信じる者の称賛をお受けになるとき、心安らかに、キリストを迎える者の中に自分もはいつているようにしなさい。」(アドベント・ホーム 635)

「イスラエル人たちが、神のさばきがエジプトの地にあったときに、自分の子供たちを自分たちの家に入れて守ったように、この危機の時代にも、わたしたちは自分の子供たちを世から分離させ、区別しておかなければならない。わたしたちは彼らに神の戒めは、わたしたちが自覚しているよりもはるかに多く

を意味していることを教えなければならない。彼らを守る人々は、神の律法の違反者たちの習慣を真似ることはない。」(家庭の教育 322, 323)

「わたしたちの飲食の習慣はわたしたちが世のものか、あるいは主がご自分の力強い真理の刃で世から分離された人々のうちに数えられる者かどうかを示す。これらの人々は主の特別な民であり、良い働きに熱心な民である。神はご自分のみ言葉のうちに仰せになった。」(教会への証 6 巻 372)

なるのはむずかしいことです！

神様だけが、人がなぜそれをしているかをごぞんじです。わたしたちは他の人の心を読むことはできません。これは大人だけが理解すればよいのでしょうか。いえ、いえ、とんでもありません！もし子供が話せるくらい大きくなったら、その子はどうやってことばというタラントを悪いことのためではなく、よいことのために用いるか学ぶことができます。イエス様のことを知ることができるくらい大きくなったということは、自分や他の人々のために、イエス様の助けを求めることができるくらい大きくなったということです。

うわさ話に対する警告 (けいこく)

「どれほど多くの家族が、彼らの日常の食事を疑惑(ぎわく)と疑問(ぎもん)とであじつけしていることだろう。彼らは友人の品性(ひんせい)をこまかに批判(ひはん)し、かれらをおいしいデザートに用いている。中傷(ちゅうしょう)というごちそうが、おとなだけでなく子供たちによっても、食卓に出されて話題(わだい)になる。このようにして神の栄えはけがされる。

批判とあらさがしの精神(せいしん)を家庭の中に入りこませてはならない。家庭の平和はあまりにも神聖(しんせい)であって、このような精神できずつけてはならないのである。しかし家族の一人一人は食卓についているとき、批判やあらさがしやスキャンダルという皿を、どれほどひんぱんにまわしていることだろう。キリストが今日おいでになるとしたら、クリスチャンだと言っている多くの家族の中にこのような批判と不親切(ふしんせつ)の精神をいだいているのを見いだされるのではないだろうか。そのような家族の各人は、天国(てんごく)の家族と一致する用意ができていないのである。

家族の食卓では、子供たちの心によい感化を及ぼすと思われるような話題を選ぼうではないか」(アドベント・ホーム 503)

「幼な子でさえも、その行いによって自らを示し、そのすることの清いか正しいかを現す」(箴言 20:11)。主がわたしたちを助けてくださって、わたしたちが思いとことばを賢明(けんめい)に選べるように、また個人的に自分たちのためにも、お互いのためにも祈ることができますように！

彩りロールキャベツ

〔材料〕

キャベツ	8 枚、
玄米（炊いたもの）	半カップ、
玉ねぎ（みじん切り）	中1個、
人参（みじん切り）	3 センチ、
エリンギ（みじん切り）	1 本、
セロリ（みじん切り）	5 センチ、
ニンニク	1 片
塩小さじ	少々
パセリ（みじん切り）	小さじ1（好みで）
パプリカ黄・赤（7, 8mm 角切り）	各々半個ずつ
ココナツミルク	1 カップ
豆乳	1 カップ
塩	小さじ1

〔作り方〕

1. キャベツのしんをそぎ、水1カップでしんなりするまで蒸し煮にする。
2. キャベツを取り出しておく。
3. みじん切りにしたニンニク、玉ねぎ、セロリ、人参、エリンギを油で炒め、しんなりしたら玄米、塩を混ぜ、8等分してキャベツに包み込む。必要なら楊枝でとめる。
4. キャベツを蒸し煮にした汁にココナツミルクを入れ、ロールキャベツを並べて、パプリカを入れて、弱火で20分煮る。
5. なじんだら、みじん切りにしたパセリと豆乳を入れ、一煮たちしたら、火を止める。

菜の花の季節なら、パプリカのかわりに使っても。少しお花が開いたくらいがきれいですよ。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)



【公開放送】 <http://www.4angels.jp>

聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理



お申込先 : 〒 350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係
是非お申し込み下さい。

書籍

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



うわさばなし？ それとも良い知らせ？

「悪人の計りことは主に憎まれ、潔白な人の言葉は彼に喜ばれる。」（箴言 15:26）

夕食どきです。お皿がならんで、みんなせきに着きました。食事を感謝（かんしゃ）して、みんなで食べはじめました。家族みんなでもうすぐ行くことになっている教会のピクニックについて話しはじめました。

「メアリルーったら、いつも注目をあつめようとするのよ」とキャロラインが文句を言いました。「わたし、あの子きらい」。



メアリルーは本当にそうなのでしょう。もしかしたら、そうかもしれません。

それについて考えたり、他の人に言ったりする価値（かち）がありますか？いいえ。

もしメアリルーの態度（たいど）を、キャロラインが気にしているとすれば、彼女のためにひそかにお祈りしてあげる価値はありますか。はい。

キャロラインがメアリルーを個人的に助けてあげるために、神様が彼女をこころにかけてくださっていると安心させてあげて、だから他の人に注目してもらおうとしなくて大丈夫だと言ってあげることは、価値がありますか？はい。

詩篇を見てみましょう。そこには、ことばや行為（こうい）でわたしたちを傷（きず）づける人々からの守りと平安を求める靈感を受けたお祈りでいっぱいです。もしわたしたちが自分自身のように他の人々を愛するなら、彼らのために祈ることでしょう。わたしたちは自分ひとりのお祈りの中で、その人たちの名前をあげて呼ぶことでしょう。そのとき、うれしいおどろきを発見するようになります。わたしたちがお祈りをしている人をきらいに